週刊 YEAR BOOK

1927 昭和2年

日録20世紀

6|30
平成10年6月30日発行
(毎週1回発行)第2巻第24号
¥560
講談社

銀行32行が休業・倒産！ 大蔵大臣の"失言恐慌"
50万年前の「北京原人」、周口店から出土
リンドバーグ、大西洋横断無着陸飛行！

芥川龍之介自殺！

大臣も官僚も責任を問われなかった!
わずか2ヵ月間で銀行32行が休業、倒産
片岡蔵相のひとことで〝失言恐慌〟襲来!

▲「東京渡辺銀行が破綻した」と衆院で失言し、金融恐慌のきっかけを作った片岡蔵相。昭和5年の衆院選では落選した。

◀片岡発言を引き金に、東京・横浜の中小銀行へ預金者が殺到。13行が取り付けにあい、休業した。写真は東京中野銀行。朝日新聞社

▼取り付け騒ぎで夫の薬も買えなくなり、泣きながら銀行を後にする老女。朝日新聞社

大正中期の〝成金時代〟は、第一次世界大戦の戦争景気に便乗した底の浅いものだった。実体がないまま、虚空で乱舞を続けた日本経済は昭和二年三月一四日、片岡大蔵大臣の〝ひとこと〟で、無残にはじけ飛んだのである。自殺者や発狂した人まで出た昭和の金融恐慌は、その後の金融行政を決定づける大事件だった。

東京渡辺銀行が倒産!? 片岡大蔵大臣の〝失言〟

片岡直温大蔵大臣(六七)の問題発言が飛び出したのは、昭和二年三月一四日二時すぎ、衆議院予算委員会でのこと。

「銀行が潰れたら、いちいち国家が救済するのか!」と野党・政友会が責めたてる中、大臣は、田昌事務次官のメモを見ながら、突然、話し出したのである。

「今日正午頃において、渡辺銀行がとうとう破綻をいたしました――」

〝寝耳に水〟の話に場内は大混乱。すぐに委員会は散会したが、この発言は、勘違いによるとんでもない〝失言〟だった。

この日の午前中、東京渡辺銀行(資本金五〇〇万円・預金高三七〇〇万円)の渡辺六郎専務(四〇)はたしかに、「本日、手形交換尻の決済資金を日本銀行に払いこめません」と大蔵省へ泣きついていた。ところが、日本銀行への斡旋は田次官にはねつけられたが、第百銀行の銀座支店長にかけあい、午後一時までに手形交換尻決済資金を払いこんでいたのである。手違いでその事実が田次官に伝わらず、「本日正午、渡辺銀行支払いを停止せり」と書かれたメモは、国会にいる片岡大臣の手に渡ってしまった。

当時大蔵省文書課長だった青木得三は、『昭和史の証言』の中で、失言後の混乱ぶりを次のように証言している。

「大蔵省の政府委員室に戻りますと、報知新聞の鈴木という記者が、『青木さん、東京渡辺銀行は店を閉めちゃいませんよ』と言うんです。銀行局から東京渡辺銀行に電話をかけてもらったところ、『うちは平常どおり営業している』と言う」

すべて〝あとの祭り〟だった。人々が抱いていた銀行への不安が、片岡大臣のひとことで発火し、翌日には市中銀行へ殺到。各地で起こった取り付け騒動が、中小銀行を休業や倒産へ追いこんだ。

翌一五日に休業を発表した東京渡辺銀行と姉妹行のあかぢ貯蓄銀行を皮切りに、三月だけで一三行が閉鎖したのだった。

特筆すべきは、青木元文書課長の東京渡辺銀行・渡辺専務に関する証言である。

「(失言当夜、大蔵大臣官邸に駆けつけた渡辺専務が)『国会で大臣が私の銀行が店を閉めたとおっしゃったというのは本当ですか』と尋ねましたので、『その

◎表紙　この年、無名の航空郵便パイロット、チャールズ・リンドバーグは、単葉機で大西洋を横断。人類初の偉業をなしとげた。

大臣も官僚も責任を問われなかった！
わずか2ヵ月間で銀行32行が休業、倒産
片岡蔵相のひとことで〝失言恐慌〟襲来！

通り間違いございません』と申しますと、意外にも渡辺君は〝喜色満面〟なのです」

まるで、経営がいき詰まっていた東京渡辺銀行にとって、「休業の大義名分になる片岡大臣の失言は〝渡りに船〟だった」と言いたげなのである。

銀行窓口に殺到する民衆 日銀は急造紙幣まで発行

明治二七、二八年に地方の名士が収益確実な事業として続々と設立した銀行は、昭和初期にはまだ乱立状態にあった。

「当時は銀行の新設認可の基準がゆるく、帳簿も支配人もなく、預金が集まると忽然と消える銀行さえあった。さらに、東京渡辺銀行のように身内の会社に乱暴な貸し出しを行うケースも多く、銀行はいわば彼らが資金獲得のために利用できる〝貯金箱〟的存在だったわけです」と語るのは、同行を題材にした『銀行倒産』の著書がある評論家の佐高信氏である。

経営基盤のもろい銀行に追い打ちをかけたのが、大正一二年の関東大震災だ。

◀1月に休業した今治商業銀行は、日本銀行支店の特別融資を受け、現金を特別船で運び8月16日営業再開。

毎日新聞社

▼押しかけた預金者の対応に追われる東京渡辺銀行。失言騒ぎの翌日、同系のあかぢ貯蓄銀行とともに休業。

毎日新聞社

若槻礼次郎内閣は銀行を救うため、この年、昭和二年に日本銀行が抱える震災手形（コラム参照）を肩代わりする法案を出したが、一部資本家を救う政策と猛反対を受ける。というのも、震災手形の半分近くを抱えるのが国策銀行の台湾銀行で、その台銀の震災手形の大半が、新興商社の鈴木商店（本社・神戸）の振り出したものだったからである。片岡大臣はこうした逆風に開き直り、〝失言〟したのだった。

日本銀行は三月二六日から四億余円の非常貸し出しを行って、金融パニックの第一波を鎮静させた。事態は収拾に向かうように見えたが、「日本最大の商社」と言われた鈴木商店が、台湾銀行から融資を引き上げられて四月五日に取引停止を発表すると、金融パニックが再燃。四月だけで台湾銀行、十五銀行など一九行が店を閉め、金融恐慌第二波の様相を見せ始めたのである。

恐慌の嵐は、立場の弱い庶民の暮らしをおびやかした。

「（銀行に押しかけた）預金者は喧々するばかりで一人として引き返す者もない。支店長が『わが銀行は世界的の銀行である。潰れることはない』とやりだすと、預金者から『世界的の鈴木が潰れたぜ』と半畳が入る」（『ドキュメント昭和史』）

銀行から〝虎の子〟が戻ってこなかった預金者の家では、病身の子が薬を飲むことなく死んでいったり、一家あげての夜逃げや自殺など、数多くの悲劇が生まれた。

一方、札束が不足した日本銀行では、「裏白」と呼ばれる急造二百円、五十円紙幣を発行して支払いにあてたという。

四月一七日に総辞職した若槻内閣の後に誕生した、田中義一内閣の高橋是清大蔵大臣は、債務者の破綻を避けるため債務の履行を三週間猶予する措置をとる。他方、日本銀行は四月一七日から市中銀行に非常貸し出しを行って、金融恐慌の火を消し止めた。

しかし、前出の青木文書課長の証言が象徴するように、民間の当事者に恐慌の責任を転嫁することはあっても、失言した片岡大臣や不手際を演じた大蔵官僚の責任が問われることはなかった。

「昭和二年の恐慌は大蔵省の銀行保護行政を決定づけ、銀行を規制や監督下におくようになる。それは銀行に安定した企業への金融を選択させ、三菱、三井、住友、安田、第一の〝五大銀行〟は、庶民から乖離していったのです」（佐高氏）

▶混乱を収拾するため、急遽日本銀行に集まった市中銀行の幹部。

朝日新聞社

昭和金融恐慌の〝影の主役〟「震災手形」とは？

関東大震災が起きた大正12年、政府は急場しのぎの支払い猶予令（金融債務の30日間支払い延期）を施行。同時に、震災前に商工業者が振り出した未決済手形を抱えこむ市中銀行を救うため、これら手形を日本銀行に再割り引きさせ、銀行を倒産の危機から救済しようとした。こうした不良手形が「震災手形」で、日銀の震災手形割引額は4億3000万円（国家予算の3分の1）と言われ、大正15年になっても2億円以上の未決済分が残っていた。

そこで、政府は昭和2年1月、損害補償限度の1億円については日銀に国債を交付し、それを越える部分についても所持銀行に国債を貸し付ける「震災手形二法案」を打ち出す。事実上、政府が震災手形すべてを補償するこの法案は、野党・政友会から猛反対を受けた。未決済の震災手形の半分近くが、発券銀行である台湾銀行と債務者である鈴木商店に集中していたからだ。片岡大臣の〝失言〟は、この法案をめぐる審議中に飛び出して金融恐慌の第1波が到来したが、日本銀行が非常貸し出しを行い、3月23日に「震災手形二法案」が可決されるとパニックは一時、鎮静化した。

◀恐慌収束のため、高橋是清蔵相は銀行の全国一斉休業を決定。

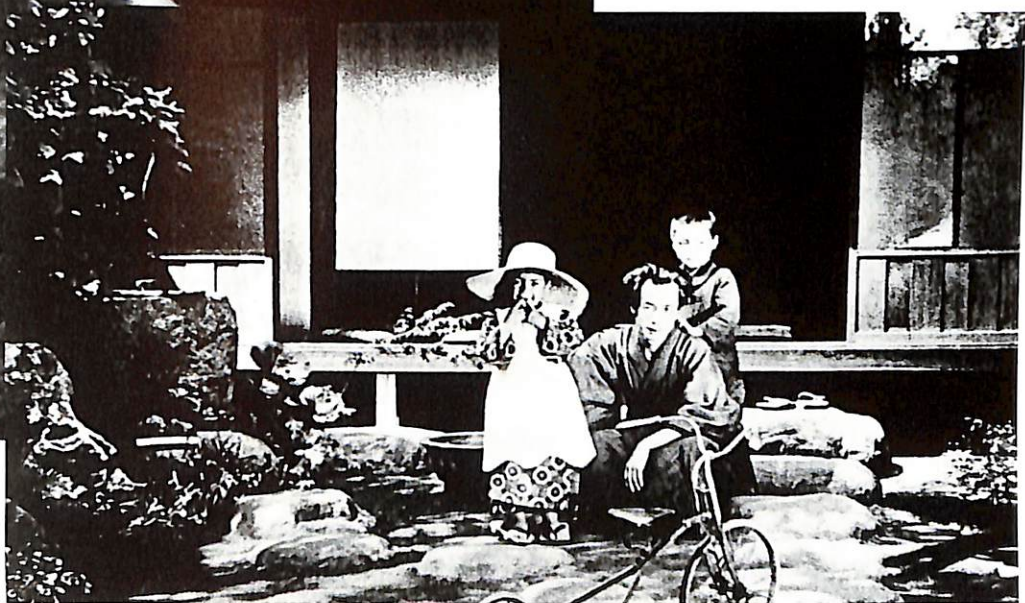
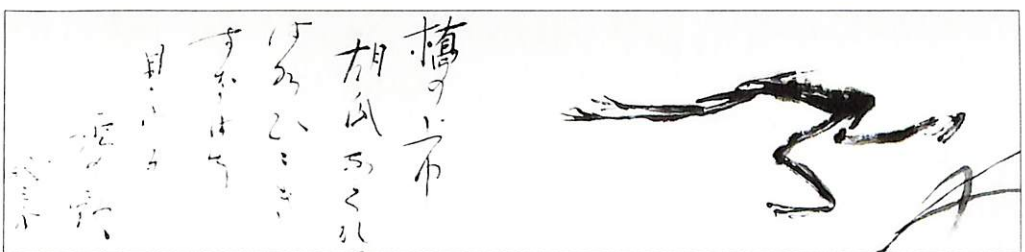
朝日新聞社

「生かす工夫絶対に無用」の遺書を残して
文壇の“寵児”三五歳で睡眠薬自殺！
芥川龍之介が抱いた「ぼんやりした不安」

大正文壇の寵児・芥川龍之介が田端の自宅で睡眠薬自殺をしたのは、昭和二年七月二四日早朝のことだった。枕もとには遺稿や、文子夫人、三児、友人、知人にあてた遺書が残されていた。自殺のキーワードである「ぼんやりした不安」は、重苦しい時代の到来を予感させる言葉として、当時の青年、知識層に大きな衝撃を与えたのである。

妻・文子の幼友達と心中をもくわだてる

昭和二年夏は、気温三五度を超える連日の猛暑続き、睡眠薬を濫用していた芥川龍之介（三五）は体力の衰弱が顕著であった。

七月二二日、下島勲医師が芥川を診察し、睡眠薬を控えるよう注意した。

▲次男・多加志の頭には、左写真と同じ帽子が。芥川の右は長男・比呂志。やはり宣伝映画のひとコマ。

▲死の数日前、甥の葛巻義敏の部屋に投げこまれていた「婆婆を逃れる河童」の図。

七月二三日、「続西方の人」を脱稿。

七月二四日午前一時すぎ、龍之介は伯母に「これを明日の朝、下島さんに渡して下さい」と言って、

「水洟（みずはな）や鼻の先だけ暮れのこる」

という句を書いた短冊を渡した。その後、午前二時頃、致死量の睡眠薬、ベロナールとジエアールを飲んで床に入り、聖書を読みながら永遠の眠りについたのである。

妻の芥川文子（二七）にあてた遺書は以下のようなものだった。

「一、生かす工夫絶対に無用。（中略）

三、絶命すまで来客には『暑さあたり』と披露すべし。

四、下島先生と御相談の上、自殺とするも病殺とするも可。（以下略）」

この遺書からわかるのは、芥川の死への絶対的な意志である。また「自殺」から生ずる世間の誤解や煩雑（はんざつ）さなどを考慮して、「病殺」とするも可と、残された家族への思いやりも見せている。最後の瞬間まで、彼は冷静沈着だったのである。

芥川の自殺は、入念な準備とさまざまな計画の後に実行された。自殺を予感させるエピソードは数多く残っている。

大正一五年一二月、弟子の佐佐木茂索（もさく）（編集者）が芥川を赤倉にスキーに誘っ

▲芥川生前最後の写真。改造社から刊行された「円本全集」のための、宣伝用フィルムからおこしたもの。　日本近代文学館提供（右下2点とも）

▲帝国ホテルで心中するつもりだった妻の親友、平松麻素子（写真左）。戦後、昭和26年に撮影。　木挽社提供

▶焼香する妻の文子と長男・比呂志。葬儀では、菊池寛が読み上げた弔辞が、満場の涙を誘った。 木挽社提供

た時、こうもらしたという。

「赤倉でも凍死できるかね、凍死はうまく行けば非常に楽な死に様だよ。それに、過失だか自殺だかわからん得があるからね」（佐佐木茂索『心覚えなど』）

心中もくわだてた。昭和二年四月、仕事場にしていた帝国ホテルで平松麻素子（二八＝妻・文子の幼友達）と死ぬつもりだったが、未遂に終わる。歌人の柳原白蓮は、「芥川龍之介さんの思い出」の中で回想している。

「龍之介さんはどうしても死ぬといふ。私は死ぬ事は悪い事だといふ。（中略）しかしこの人（麻素子）は私にとつて大事な人だから一緒に死んではいやだ、死ぬなら一人で死んでといつて泣き出してしまつた」

死の三日前、最初の結婚にいき詰まり自殺未遂の経験を持つ作家の佐多稲子（二三）は、その時のことを詳しく尋ねられた。

「いきなり、『あなた自殺するときに何を飲んだんですか』。（中略）で、あたしはジエアールを飲みました、とお返事したんです。芥川さんはベロナールだったんですね。（中略）『生き返ったあと、また死のうと思いませんか』って。だから、『いいえ、思いません』と。とにかくそう訊かれたときに、変なことを訊かれる、と思ったわ」（佐多稲子『年譜の行間』より）

分裂気質がもたらす不安神経症と分裂病

七月二五日、芥川の遺書「或旧友へ送る手記」が、「東京日日新聞」ほかに掲載された。

「少くとも僕の場合は唯ぼんやりした不安である。何か僕の将来に対する唯ぼんやりした不安である」

自殺の原因について、義兄・西川豊（四一＝姉・ヒサの夫）の自殺、その金銭にまつわる後始末、出版編集人としての印税をめぐるトラブル、年来の友人の作家・宇野浩二の発狂など世俗的な理由がいろいろ取りざたされたが、芥川賞を創設した親友の菊池寛（三八）は、昭和二年九月の「文藝春秋」の「芥川の事ども」で憶測、妄説の類をシャットアウトする。

「我々にもハッキリしたことは分からない。分からないのではなく結局、世人を首肯させるに足るような具体的な原因はないと言うのが、本当だろう。結局、芥川自身が言っているように主なる原因は『ぼんやりした不安』であろう」

大陸に進出しようとする軍靴の音が聞こえ、労働運動が高まりを見せる。そのような時代の「ぼんやりした不安」という辞世が、時代の気分を反映する「社会的な不安」と受けとめられるのは自然なことであった。

「身近にいた中野重治とか、窪川鶴次郎などがプロレタリア文学運動に走りましたからね。自分だけ時代に取り残されるというような意識が、芥川には非常に強かったと思います。書けなくなったとか、発狂への恐怖とか、病気とか、不安の種は尽きなかったろうけれど、芥川の自殺を解く鍵は、漠とした未来への不安というあたりにあるというのが通説です」（文芸評論家・山本容朗氏）

文学者の尖鋭な神経が感知した時代、社会に対する「ぼんやりした不安」が自殺原因と言うのだが、もちろん異説もないわけではない。

芥川賞作家で神経科の医師でもあった北杜夫氏は、芥川の自殺の直接の原因として、晩年の歯車の幻視体験などから、きわめて強い分裂気質からくる不安神経症と分裂症をあげる。

「鋭敏な方だから、精神的にも肉体的にも極限の苦痛にさいなまれていたと言っていい。今なら、クロールプロマジンなど中毒しにくい抗精神病の薬がある。自殺されることはなかったと思います」

芥川を悩ました「ぼんやりした不安」が何であれ、心の病が何であれ、悲劇は避けられたはずと言うのである。

日本近代文学館提供（3点とも）

▲小穴隆一が描いた「死の姿」。小穴は、大正11年、芥川をモデルにした肖像画「白衣」を二科会に出品している。

▲7月24日早朝、夜来の雨音を聞きながら、致死量の睡眠薬を仰いで開いた「旧新約聖書」。

◀中国で買い死の床で着ていた浴衣。大正10年、芥川は「大阪毎日」の海外視察員として中国を旅した。

女たちの肖像

夫を待つ女の孤独と忍従 〝憂愁の佳人〟九条武子の『無憂華』がベストセラー

稲葉真弓

「憂愁の佳人」「孤閨の麗人」と称された九条武子（三九）が、歌文集『無憂華』を出版したのがこの年の七月のこと。一週間ごとに版を重ね、一〇〇刷を超える大ベストセラーとなった。〝無憂華〟は梵語で、〝あの世の花〟の意味。宗教界に深いかかわりがあった武子らしいタイトルである。

彼女は、日本女性史の中では異例とも言える、きわめつきの〝お姫さま〟だった。明治二〇年一〇月、京都・西本願寺第二一代法主・大谷光尊（明如上人）とその側室、大谷藤子の次女として生まれ、幼時から信仰に親しむ一方、供のものなしでは庭も歩けない深窓の令嬢として育った。書、歌、絵、仕舞、茶など最高級の教育を受け、小学校へも振り袖、銀の花かんざし姿でかよい、行き帰りは車。彼女の姿があまりにも美しくこうごうしいので「生仏さま」と涙を流して拝む信徒もいたという。

彼女の容姿は、歌人の与謝野晶子曰く、「京都の生んだ日本一の美貌」、一五歳の頃、新聞の美人投票で一位になったほど。その彼女が歌人として名をはせるのは、明治四二年九月、男爵・九条良致と結婚してからである。三ヵ月後、夫は英国のケンブリッジ大学に留学。新婚旅行を兼ねて武子も同行したが、半年後に別居。以来、夫は一二年間一度も日本に帰らなかった。この奇妙な結婚生活の中から生まれたのが、大正九年に出版された歌集『金鈴』だった。

「かりそめの別れと聞きておとなしう／うなづきし子は若かりしかな」

夫の帰りを待つ女の、孤独と忍従を歌った歌集は多くの女性の共感と感涙を誘い、たちまちベストセラー、一世を風靡した。

前後して彼女は、慈善事業家として大きな功績を残している。父の死後、二二代目を継いだ兄の妻・籌子とともに、西本願寺仏教婦人会の仕事に尽力し、籌子亡き後は総裁代理として全国各地の巡教や講演をこなし、女子のための学校（京都女子高等専門学校＝現・京都女子大学）の設立に奔走した。

大正一二年の関東大震災では、臨時救済事業に乗り出し、貧民街への慰問、物資調達のほか、無料診療所を開設。『無憂華』の印税はすべてこの事業につぎこまれた。

〝お姫さま〟から社会事業家に脱皮した武子だったが、貧民街を巡回中に敗血症菌に感染、これがもとで昭和三年二月、四〇歳で死去。火葬場には貧民たちが空き瓶に花を挿して集まり、〝無憂華〟の国に旅だつ彼女を泣きながら見送ったという。

▲英国から帰国後、歌は佐佐木信綱に師事。

勝者・敗者

巧妙なアプローチとパット！プロを圧倒したアマチュア赤星六郎、日本オープン優勝

阿部珠樹

大正一一年、横浜に程ケ谷カントリー倶楽部が創設された。

程ケ谷の創設は、日本のゴルフ熱の口火を切るものだった。続いて二年後の大正一三年には日本ゴルフ協会が創設され、一五年には第一回の関西オープンが開かれた。関西オープンとなったのは、この当時、プロの大半が関西に本拠をおいていたためで、実質的には日本プロ選手権だった。

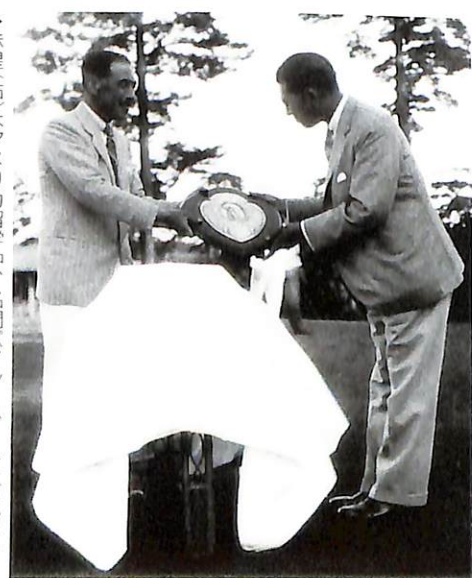
そしてそれらの総仕上げの形で、この年、昭和二年の五月二八、二九日の二日間にわたり、第一回の日本オープンゴルフ選手権が程ケ谷で開催されたのである。

競技方法は七二ホールのストローク・プレー。優勝者には優勝杯のほか、アマチュアの場合は金メダル、プロには一位五〇〇円、二位三〇〇円など賞金が贈られることになっていた。

この記念すべき大会の参加者はアマ一二人、プロ五人の計一七人。プロは大正一〇年代になって、ようやくなり手が現れたので歴史が浅く、実力はアマチュアとほとんど差がないと見られ、試合は混戦が予想された。

しかし、いざ大会が始まってみると、一人の大柄な男が、ほかの選手を圧倒するゴルフを見せて独走した。

男の名は赤星六郎（二六）。有名なアマ・ゴルファー、赤星四郎の弟で、アメリカに留学し、プリンストン大学のゴルフ部員として腕を磨き、大正一四年に帰国した若いゴルファーだった。赤星の特徴はアメリカの最新理論に基づいた巧妙なアプローチとパットにあり、力まかせに振りまわすだけの日本のプロと比べると、その技量は抜きん出ていた。二日間、七二ホールを戦って三〇九、二位に一〇打差をつける圧勝で、赤星は最初の日本オープン優勝者となった。赤星の出現に刺激を受けたプロたちは、翌年から必死になって日本オープンのタイトルをめざした。

以後、タイトルはプロが独占し、今日にいたる。つまり赤星六郎は、アマで唯一の日本オープン優勝者なのである。

▶赤星（右）はアメリカ留学中、名門パイン・ハーストゴルフクラブのアマ・トーナメントに飛び入り出場、優勝している。

隅田光子提供

ニュース・ファイル

1927

フォト＋日録で再現する365日

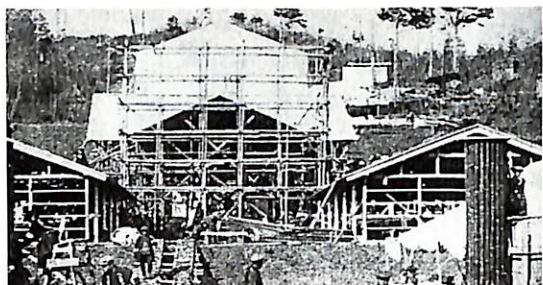
諒闇中だったが新しい時代、昭和への期待が高まった。小田急が開通し、ラジオ放送が人気を集め、日本初の地下鉄が走った。しかし、片岡蔵相の失言が金融恐慌を招き、元陸軍大臣・田中義一の首相就任は、中国侵略を準備し軍国化への道を開くものとなった。

◀日本初の地下鉄が開通（12月30日）午前6時、上野から2.2キロ先の浅草へ出発。運賃は市電より3銭高い10銭だったが、初日から人気で、1日10万人が乗車。新しい都市交通の幕開きとなった。写真は浅草駅入り口。

共同通信社

▼多摩陵、着工（1月3日）大正天皇を祀る造営工事は、この日、東京・南多摩で着工。作業員3000人を動員、2月5日に斎場が完成。全域の工事は昭和6年に終了した。

朝日新聞社

▲大喪儀用の冠作り（1月）大正天皇崩御後、皇室葬儀令に基づき、宮内省が大喪に奉仕する人々の衣冠や諸具を発注。御用商は2月7日の式典に向け、大忙しとなった。

朝日新聞社

▲中国国民政府、英租界を奪回（1月4日）武漢で宣伝隊が、漢口・九江両租界になだれこみ占拠。両国の交渉の結果、英は両租界を返上した。写真は上海租界守備に急派される英部隊。

▲飛行船「N3号」の設計者・ノビレ少将来日（1月25日）製作・指導のため霞ケ浦飛行場に着任（左端）。前年、アムンゼンと北極点上の飛行に成功していた。

▶日本GM設立（1月17日）前年、横浜に進出したフォード社に続き、4月に大阪で生産開始。日本の自動車普及は一気に加速した。写真は車体の組み立て。

毎日新聞社

▶東西合併初の本場所（1月7日）人気回復のため、日本大角力協会が5日に発足。写真は新番付を見る大阪横綱の宮城山。この場所、東京力士より劣るという評判を逆転し優勝した。

毎日新聞社

昭和2年1月

1（土）●東京の年賀状が大正天皇諒闇のため、前年比八〇%激減の二八二万通。
●健康保険法による保険料の給付開始。

2（日）●大阪―名古屋間で電話線での放送中継試験。

3（月）●武漢で国民政府宣伝隊と英義勇兵が衝突（4日、漢口、6日、九江両租界を占拠）。

4（火）●秩父宮雍仁、五〇〇体の「青い目の人形」とともにサンフランシスコを出港、帰国へ。

5（水）●日本大角力協会結成。東西の相撲協会が合併。

6（木）●味の素、ガラス製の食卓容器詰め発売と広告。
●警視庁、大喪控え全市で戸別検病調査を決定。

7（金）●ニューヨーク―ロンドンの商業無線電話開通。

8（土）●流感で前月一一八五人が死亡、と新聞に。

9（日）●海軍省購入の飛行船組立隊がローマから来日。

10（月）●若槻首相、首相として初めてラジオに出演。

11（火）●佐世保海軍病院が戦艦「陸奥」乗組員の切断手首の接合手術に成功、と新聞に。

12（水）●帝国サルベージ、中国・呉淞沖に沈没した英船の金銀貨（時価五〇万円）引揚げに成功。

13（木）●チャップリン、離婚訴訟で財産「没収」と外電。

14（金）●労農党委員長の大山郁夫、早大教授を辞職。

15（土）●大阪地裁、松島遊廓事件で若槻首相ら不起訴。

16（日）●震災後初の警視庁「細民調査」で、三万八八九三〇戸中一万五四四四戸が特に貧困と新聞に。

17（月）●日本ゼネラル・モーターズ㈱設立。

18（火）●昭和二年度予算、十七億三千万余円（うち陸海軍四億六千万余円）上程（3月24日成立）。

19（水）●一〇年二〇〇円で「子守契約」の少女、主家の折檻に耐えられず鉄道自殺をはかるが未遂。

20（木）●東京市電、女性車掌「赤襟嬢」廃止を決定。

21（金）●自動車普及で地方鉄道百余社経営難と新聞に。

22（土）●田辺茂一、新宿に紀伊国屋書店創業。

23（日）●東京天文台の及川奥郎、小惑星を発見。

24（月）●北海道・十勝岳、噴火。黒煙が五〇〇メートル超える。

25（火）●貴・衆両院、明治節制定案を可決（3月制定）。

26（水）●未決済二億六八〇万円の震災手形処理二法案、衆院に提出（議会紛糾、3月30日公布）。

27（木）●帝劇での小山内薫作「吉田御殿」に上演禁止。

28（金）●北陸本線能生駅付近で列車が吹雪の中、旋風に巻き上げられ脱線、転覆。九人重軽傷。

29（土）●富山県の日本電力発電工事所で大雪崩発生。作業員七四人が生き埋め（後に遺体で発見）。

30（日）●戦艦「周防」、屑鉄相場の五八〇〇円で落札。

31（月）●連合国による独の軍事管理、終了。

「イリュストラシオン」

▲大正天皇大喪（2月7日）午後7時、柩は200万人が見送る中、宮城から斎場の新宿御苑に進んだ。翌日、多摩陵に柩が納められ大喪は終了。写真は葱華輦（そうかれん）の練習をする八瀬童子。

▲村山貯水池完成（3月31日）多摩湖とも言い、大正5年に水沈農家161戸が移転を終え着工、上ダムに続き下ダムが竣工した。山口貯水池（狭山湖）とともに、玉川上水に代わって、需要が急増する東京市民への主要な上水道の水源地となった。

朝日新聞社

◀クローデル駐日仏大使が別れの宴（2月11日）在日5年の詩人・劇作家らしく、芸術家を大使館に招待。左から二人目が守田勘弥、その右、鏑木清方、中央が大使。17日、横浜港を発った。

▲大阪市が「銀バス」運転（2月26日）郊外の阿倍野橋―平野間4.8キロを、7台で開業。昭和4年から中心部に乗り入れ、民営「青バス」との競合が始まった。

毎日新聞社

▲「青い目の人形」使節（2月）日米関係改善のため、米国人のギュリックが呼びかけ。1万2739体が、渋沢栄一の助力で全国の学校に送られた。写真は11月、そのお返しに米国へ贈られる日本人形の送別会。

石黒敬章提供

▲藤田嗣治（40）、オペラ座で柔道紹介（2月1日）パリ画壇で活躍する中、石黒敬七五段（左）と二人でフランス社交界の人々を前に、日本人として初めて型や乱取りを披露した。

昭和2年2月

1（火）●画家・藤田嗣治ら、パリのオペラ座で柔道紹介。
●茨城に日本国民高等学校開校。校長・加藤完治。
●兵庫県八鹿町の小学校全焼。「御真影」を持ち出そうとした教員が焼死。

2（水）●岡山県北川村で小作人が小作料五割削減要求。

3（木）●「文藝春秋」、初めて座談会形式の記事を掲載。

4（金）●日農、須永好・浅沼稲次郎ら右派一二人除名し分裂（3月1日、浅沼ら全日農を結成）。

5（土）●東京市、無料産院の深川産院を開設。

6（日）●新潟県春日村役場が過積雪で倒壊。村長圧死。

7（月）●新宿御苑で大正天皇大喪儀。一八万人に恩赦（8日、多摩陵で陵所の儀）。

8（火）●一月一八日来豪雪続き、北陸本線不通（18日までに北陸四県で死者・行方不明一九七人）。

9（水）●英ウエストミンスター寺院で大正天皇奉悼式。

10（木）●ブリュッセルで被抑圧諸民族会議開催。ネルー、ホー・チ・ミン、宋慶齢ら出席。
●伊吹山に一一・八二メートルの降雪。日本最深記録。

11（金）●メキシコ、教会財産国有化、牧師追放を開始。

12（土）●稚内発樺太行き連絡船二隻が結氷で立ち往生。

13（日）●警視庁、戸口調査で腸チフス三七人、赤痢四人など未隔離の伝染病患者五六人発見と発表。

14（月）●東京で二〇〇万円の社債券偽造団八〇人検挙。

15（火）●朝鮮で民族解放の単一党「新幹会」結成。
●元横綱大錦、早稲田大に入学願書（4月入学）。
●阪神大国道アスファルト化完成で議員ら視察。

16（水）●朝鮮京城放送局、本放送開始（聴取料月二円）。

17（木）●幣原外相、貴族院で対中国内政不干渉を言明。

18（金）●日ソ初の正式利権契約、森林利権契約調印。

19（土）●明治製菓、ソフトビスケットの製造開始。

20（日）●近衛秀麿らの新交響楽団、第一回予約演奏会。
●神戸・福原遊廓の娼家から娼婦一〇人逃亡。

21（月）●武漢国民政府（首班・汪兆銘）、樹立。

22（火）●北海道の熊の肉が神経痛薬として人気、前年の七倍に高騰（前年捕獲数一三五頭）と新聞に。
●米最高裁、外国人学校の教育の自由認め、ハワイの日本人学校取締り法は違憲の判決。

23（水）●早川雪洲が米から帰国。映画プロ設立めざす。

24（木）●田谷力三らのラジオ歌劇、第一回放送。

25（金）●上海ゼネスト終結。山東軍、上海を占領。

26（土）●矯風会など婦人児童売買禁遏国民委員会設立。
●大阪市営乗合自動車、「銀バス」が営業開始。

27（日）●サンフランシスコ―ロンドン無線電話開通。

28（月）●芝・増上寺で千余人の僧侶、宗教法案反対大会。

朝日新聞社

◀岡田嘉子、恋の逃避行（3月27日）人気女優が京都で映画「椿姫」の撮影中、共演の竹内良一と駆け落ち。4月1日、福岡県飯塚にひそんでいるところを発見された（写真）。この事件で岡田（24）は日活を解雇された。

朝日新聞社

▲丹後大地震起こる（3月7日）午後6時半頃、京都北部を中心とした関西地方をM7.3の激震が襲った。火災も発生し被害は甚大で、死者2925人、家屋全壊・全焼1万2584戸。写真は、山陰本線余部鉄橋付近。

呉市企画部海事博物館推進室提供

◀空母「赤城」竣工（3月25日）軍縮で巡洋艦を改造。約3万トン。3段の飛行甲板に91機搭載。昭和17年、ミッドウェー沖海戦で大破した。写真は6月、伊予灘での予行公試。

毎日新聞社

◀陸軍、国産戦車誕生へ（3月）大阪砲兵廠製作の試験車が完成（写真）。57ミリ砲装備、速度25キロ、重量10トン以内などの条件を満たし2年後、初の制式戦車「89式」となった。

毎日新聞社

◀議会で大乱闘（3月24日）新正倶楽部・清瀬一郎が、政友会総裁・田中義一の陸軍機密費流用問題を質問したため、政友会議員十数人が殴る蹴るの暴行。写真は、事情聴取に向かう清瀬（42、左）と、同僚の田崎信蔵。

毎日新聞社

▲「第2の鬼熊」逮捕（3月19日）8日ぶりに事件解決。犯人の広島県在住の消防手は、菓子屋から金平糖1缶を盗み、追ってきた警官二人を自宅で父親とともに金槌などで撲殺、逃走していた。写真は連行される父子。

昭和2年3月

1（火）●憲政会と政友本党、提携を発表（憲本連盟）。

2（水）●カリフォルニア州議会に新移民制限法案を提出。増加する日本人密航者防止が目的。

3（木）●「青い目の人形」歓迎会、日本青年館で開催。

4（金）●東京市、市吏員一九〇人の解雇を発表。

5（土）●電車内・駅構内への広告認可（9月受付開始）。

6（日）●二八〇団体が連合し大阪府連合処女会発会。

7（月）●北丹後中心に関西地方でM七・三の大地震。二九二五人死亡など被害甚大（丹後地震）。

8（火）●磐城無線局を東京に移転、東京無線局と改称。

9（水）●埼玉県鴻巣町、米から日本人形五〇万体受注。

10（木）●在京新聞・通信一七社、出版法反対の共同声明。
●大河内傳次郎主演「忠治旅日記」封切。

11（金）●市村座の大谷友右衛門、冷遇理由に座を脱退。

12（土）●松竹映画「稚児の剣法」封切。林長二郎（後の長谷川一夫）がデビュー。

13（日）●関東に大雪。両国駅のホーム屋舎が横倒し。

14（月）●片岡蔵相、衆院で東京渡辺銀行が破綻と失言。

15（火）●東京渡辺銀行、あかぢ貯蓄銀行休業。銀行取り付けが全国に波及。金融恐慌始まる。

16（水）●新潮社「世界文学全集」刊行開始。予約五八万。

17（木）●全国一斉高校入試。一高文科の競争率一三倍。

18（金）●日本郵船争議団、ストに突入。全船の出港不能。

19（土）●罹災地建物の除去延期を認める勅令公布。

20（日）●帝人など六社が日本人絹連合会を設立。
●東京・有楽町に朝日新聞社社屋が竣工。

21（月）●日銀、取り付け続く市中銀行に非常貸し出しを実施（～22日、四億五〇〇〇万円）。

22（火）●蔵相・日銀総裁、財界安定に関する声明発表（この日までに一三行休業、第一次動揺沈静）。

23（水）●震災手形処理二法案、貴族院で可決。

24（木）●中国国民革命軍、南京を占領し各国領事館襲撃。英米軍艦、市内を砲撃（南京事件）。

25（金）●空母「赤城」、呉海軍工廠で完成。
●東京電気、芝浦製作所と代理販売契約を締結。

26（土）●台湾銀行、鈴木商店に新規貸出停止を通告。

27（日）●女優・岡田嘉子、日活映画「椿姫」撮影中に相手役の竹内良一と駆け落ち（30日解雇）。
●福島県磐城炭坑で火災。一三六人死亡。

28（月）●米プロ野球チームが初来日。大学などと対戦。

29（火）●漢口などの在留邦人、上海に引揚げと決定。

30（水）●銀行法公布。中小銀行の整理・統合を促進。

31（木）●東京の飲料水をたくわえる村山貯水池が完成。
●公益質屋法公布。世帯貸付限度は一〇〇円。

日録 20世紀1927

4~5月

▲**米国で初の有線テレビ実験、成功(4月7日)**ワシントンのフーバー商務長官の受像機に、ニューヨークのベル電話会社研究所送信の画像が、はっきり写った。

PPS

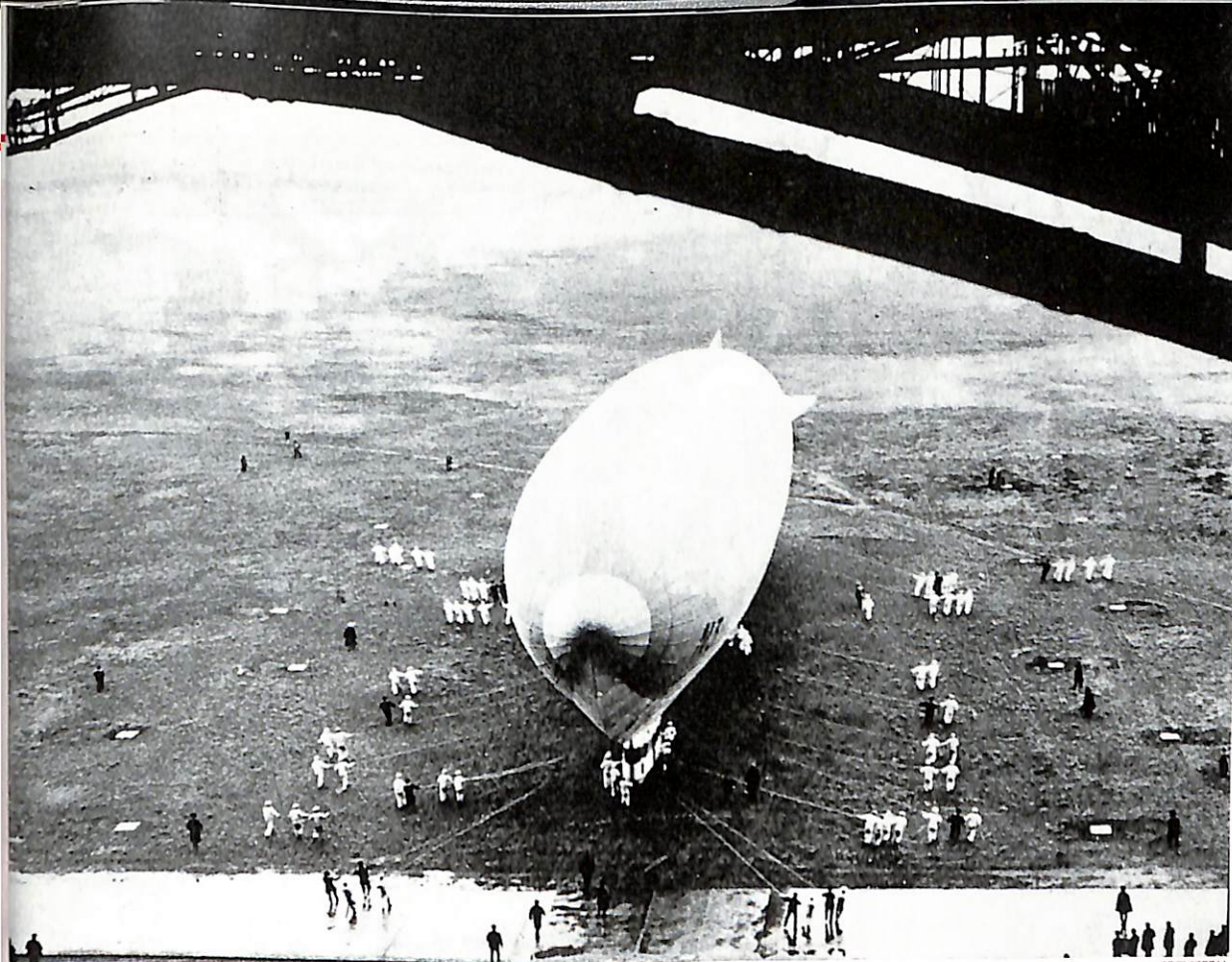
◀**「N3号」試験飛行(4月6日)**設計者・ノビレ少将の操縦で、乗員12人と少将の愛犬1頭を乗せ、茨城県上空を旋回した。写真は霞ケ浦の格納庫から出る飛行船。

朝日新聞社

▼**ロンドンで旧ロシア皇室の宝物競売(4月)**シベリアに幽閉され、1918年に根だやしにされたロマノフ王朝のニコライ2世一家からソ連政府が没収した、巨万の富の一部。たびたび欧州市場に登場し、貴族や宝石商人らを騒がせてきた。

◀**上海で反共クーデター(4月12日)**蔣介石が共産党員の徹底粛清を指示、市内各地で労働者らが襲われ、約3000人が射殺された。これで武漢の国民政府は分裂、蔣は18日、南京に仮政府を樹立した。

朝日新聞社

▶**新議事堂、上棟式(4月7日)**7年7ヵ月ぶりに基礎工事と本館の骨組みができ、東京・麴町の現地で祝典を挙行。その後、不況が重なって工事ははかどらず、鉄骨は風雨にさらされたが、昭和11年にようやく完成した。

▼**小田急開通(4月1日)**東京・新宿―神奈川・小田原間82.5キロを2時間20分で接続、震災後に進んだ郊外宅地開発や学園都市建設を担った。写真は、開通を前にした新原町田駅。

小田急電鉄提供

証言・あの日この日

荒畑寒村(39)

1月12日(水)　〈昭和二年一月十二日、私は先に出所していた堺さんに迎えられて巣鴨を出た。満期放免の前日、教誨師が奥歯に物のはさまったようないい方をした。「あなたも出てみればわかりますが、あなた方の仲間はいま論争で大変ですよ。山川さんなどは、味方からさかんに攻撃されているようです。」それ以上、詳しいことはわからなかったが、私は不審にたえなかったので早速、堺さんに事情をただしてみた〉(荒畑寒村『寒村自伝』)

論争とは、この頃、福本和夫が提起した「結合の前の分離」論である。福本は、山川均の現実主義への「方向転換論」を批判し、大衆運動から分離・独立した急進的左翼運動を主張、一大ブームを巻き起こしていた。出獄したばかりの荒畑には、何が何だかさっぱりわからない。帰宅早々、古い雑誌を読み始める。(山崎行太郎)

影山光洋

◀**モガ大流行(5月)**東京に映画館、ダンスホール、カフェーなどが続々誕生したこの頃、洋画の中から飛び出してきたようなモダンガール(モガ)が街を闊歩し始めた。その最大の特徴は、断髪、フェルト帽、洋装だった。

▼**銀座にカフェー「クロネコ」開店(5月)**白いエプロン姿の女給が客席でサービス。大阪発のブームが、東京・銀座にも押し寄せた。永井荷風いわく「建築の様式は新橋演舞場に似たるものなり。料理は言ふに足らず」。

毎日新聞社

▼**日米学生交歓会(4月19日)**母国見学で来日した日系二世の学生8人と、大阪の学生80人が交歓。大正13年の排日法以来、悪化する日米関係の改善策を討議した。

朝日新聞社

朝日新聞社

◀**「聖橋」が完成間近(5月)**御茶ノ水駅近くの神田川に、アーチ橋登場。山田守のデザインで長さ92メートル。名称は、ニコライ堂と湯島聖堂を結ぶ橋の意。8月5日に完成した。

毎日新聞社

▲**第1次山東出兵(5月28日)**国民革命軍による北伐で日本の権益があやうくなったため、田中義一内閣が断行。青島へ部隊2000人を急派した。写真は、市中を行進する派遣部隊。

昭和2年4月

- **1**(金)●兵役法公布。現役期間を一年短縮。●新宿―小田原を結ぶ小田原急行鉄道開業(16日、西武鉄道、高田馬場―東村山間開通)。
- **2**(土)●早大野球部、米遠征に出発(二二勝一二敗)。
- **3**(日)●漢口で中国軍と日本陸戦隊衝突(漢口事件)。
- **4**(月)●海軍航空本部設置。航空兵器の統轄と開発。●東京の桜八万五〇〇〇本の台帳完成と新聞に。
- **5**(火)●花柳病予防法公布。性病診療機関設置。
- **6**(水)●海軍霞ケ浦航空隊の飛行船「N3号」試験飛行。
- **7**(木)●新議事堂の上棟式挙行(大正7年起工)。
- **8**(金)●神戸の第六十五銀行、休業。株式相場暴落。
- **9**(土)●警視庁、身元不明死体七百余の写真を初公開。●松下電器、ナショナルランプ新発売と広告。
- **10**(日)●花見の人出で東鉄の収入が過去最高を記録。
- **11**(月)●中国からの日本人避難民二八五人、長崎着。
- **12**(火)●蔣介石、上海で反共クーデター(15日武漢政府、蔣介石逮捕令、18日南京で国民政府樹立)。
- **13**(水)●東京にはしか流行し三七〇人死亡、と新聞に。
- **14**(木)●女学生に優生学をと国民結婚輔導会が協議。
- **15**(金)●実業家百余人、第一回京浜経済提携会議。
- **16**(土)●ワシントン軍縮条約後初の巡洋艦「妙高」進水。●北京郊外の周口店洞穴遺跡で、カナダ人ら本格調査開始(10月16日北京原人の歯を発掘)。
- **17**(日)●倒閣はかる枢密院が台湾銀行救済緊急勅令案を否決。若槻内閣総辞職。●日銀、貸し出し開始(~25日二〇億円突破)。
- **18**(月)●台湾銀行、島外の全支店休業。再び取り付け激化(18日近江銀行、21日十五銀行休業)。
- **19**(火)●警視庁、少年少女酷使する工場を書類送検。
- **20**(水)●田中義一政友会内閣発足。蔵相に高橋是清。●保井コノ、日本最初の女性理学博士となる。
- **21**(木)●各地の取り付けピーク、休業銀行三七。銀行総会で二二日、二三日全国一斉休業を決定。
- **22**(金)●三週間のモラトリアム(支払い猶予)施行。
- **23**(土)●藤森成吉著『何が彼女をそうさせたか』刊行。
- **24**(日)●東京鉄道局の求人七〇人に二六〇〇人が応募。
- **25**(月)●全国の銀行が業務再開。取り付けなく平穏。●紡績連合会、六ヵ月の操業短縮を決議。
- **26**(火)●千葉県立大多喜中学で校長の「自由教育」方針に反対し軍事教練助手・生徒らが騒ぐ。
- **27**(水)●鉄道省、関門トンネルの調査実施を決定。
- **28**(木)●神戸の鈴木商店破綻、社員五百数十人解雇。
- **29**(金)●嵐寛寿郎の鞍馬天狗第一作「角兵衛獅子」封切。
- **30**(土)●大阪の高校入試問題漏洩事件で買収者を退学。

昭和2年5月

- **1**(日)●佐藤紅緑「あゝ玉杯に花うけて」、「少年倶楽部」に連載開始。
- **2**(月)●日窒、朝鮮・興南に朝鮮窒素肥料㈱設立。
- **3**(火)●第一回国際写真サロン開催。天然色も出品。
- **4**(水)●鉄道相、駅名のカタカナ左書きを中止と発表。
- **5**(木)●公娼反対の二五団体、七ヵ所の二業(芸妓置屋・料理店)地指定取り消しを警視庁に陳情。
- **6**(金)●東京市、本郷に知識階級職業紹介所を開設。
- **7**(土)●衆院、金融恐慌誘発の枢密院弾劾決議案可決。
- **8**(日)●人見絹枝、陸上二〇〇㍍で二六秒一の世界新。
- **9**(月)●東京―神戸間に警察専用直通電話が開通。
- **10**(火)●井上準之助、市来乙彦の後任で日銀総裁就任。●日本ポリドール蓄音機設立。輸入原盤の洋楽レコード製作(9月、日本ビクター設立)。
- **11**(水)●東海道本線東京―国府津間の電化工事完了。
- **12**(木)●長野県木曽福島町で大火。八〇〇戸焼失。●鎌倉で米国から食用ガエル用にザリガニ輸入。
- **13**(金)●三菱銀行、預金四億円突破。五大銀行に預金集中(31日郵便貯金前年比二割増の一五億円)。
- **14**(土)●大佛次郎「赤穂浪士」、「東京日日新聞」で連載。●消防車のヘッドライトが赤色になると新聞に。
- **15**(日)●平凡社、「現代大衆文学全集」(円本)刊行開始。
- **16**(月)●警視庁、中風・神経痛の特効薬と称する「海帰来」を効果なしとして発売禁止処分。
- **17**(火)●大審院、家出し愛人と内縁関係を結んだ夫に対し、妻への貞操義務違反と判決。
- **18**(水)●東京朝日新聞社で「新ロシア美術展覧会」開幕。
- **19**(木)●第一回全国都市問題会議。「防火と建築」など。
- **20**(金)●英、サウジアラビアの独立認める協定に調印。
- **21**(土)●リンドバーグ、大西洋無着陸横断飛行に成功。
- **22**(日)●全国小学校女教員大会。初任給男女同額建議。
- **23**(月)●神戸市長ら、川崎造船所救済を首相に陳情。
- **24**(火)●英首相、ソ連との国交断絶を声明。
- **25**(水)●大蔵省、銀行検査官設置。監督を強化。
- **26**(木)●栗島すみ子主演「真珠夫人」封切。
- **27**(金)●資源局設置。国家総動員計画を統括。
- **28**(土)●政府、関東軍に第一次山東出兵を発令(6月1日、陸軍二〇〇〇人青島上陸)。●第一回日本オープンゴルフ選手権大会開催。
- **29**(日)●東亜飛行学校の女生徒二人、三等飛行士に。
- **30**(月)●京都学連事件で野呂栄太郎、林房雄らに有罪判決。初の治安維持法適用判決。●東洋モスリン亀戸争議で女工の外出自由獲得
- **31**(火)●無産者諸団体が対中非干渉全国同盟を結成

「現場」を歩く 鎌倉

食道楽・北大路魯山人が開いた「星岡窯」の思いがけない所有者

山本徹美

昭和二年一〇月、鎌倉市山崎字倉久保に「魯山人窯芸研究所星岡窯」が開設された。窯主は北大路魯山人（四四）である。その動機を述べた一文。

「食い物をうまく食うのに、食器を自分で作りだしたなどというのは僕をもって嚆矢とするであろう。徹底した食道楽のさせた業である」（「芸術新潮」昭和二七年一〇月号）

▲接待用に建てられた22戸の家屋のうちのひとつ。現在、野村證券によって管理され、建物も庭も手入れは行き届いている。 但馬一憲

魯山人の本名は房次郎と言い、京都でペンキ看板職をしていたが、書家として独立しようと明治三六年、二〇歳の時に上京、二年後、岡本可亭（画家・岡本太郎の祖父）に師事、同四〇年には書道教授の看板を掲げた。その後、朝鮮に移住、満州（中国東北部）や中国を旅して篆刻を学ぶ。彼の彫る落款は、横山大観や前田青邨、鏑木清方など一流日本画家に重宝された。その頃から日本料理への関心が高まり、大正一〇年、みずから料理長をつとめる「美食倶楽部」を結成。同一四年には、東京・赤坂に会員制割烹「星岡茶寮」を開店させていた。

星岡窯の総面積は約七〇〇〇坪。魯山人は、ここに登り窯を築いて作陶に没頭するかたわら、敷地内に天保年間（一八三〇～四四）建造の百姓屋敷や徳川家康の陣屋など、合計二二戸もの旧家屋を移築し、迎賓館や茶室として利用、手料理で会員をもてなしたのである。

没後、作品は高騰

星岡窯を訪ねてみた。魯山人は、「ここに窯をつくったときは、北鎌倉の駅もなかったし、勿論バスもない。（中略）田舎どころの騒ぎではない。野と山があっただけだ」（前出「芸術新潮」）と書いたが、現在では向かいに小学校が建ち、山の斜面にも民家が並ぶ。星岡窯の敷地は一六二坪に減り、屋敷内には茅葺きの平屋など数棟が建つのみ。家屋や庭の手入れは行き届いているが、人の住んでいる気配はない。

調べてみると、この土地と建物は魯山人が没して半年後の昭和三五年五月、遺族が相続した後、北裏喜一郎（元野村證券会長・故人）に売却され、同六三年二月に野村證券の関連会社が購入していた。野村證券広報部に訊く。

「北裏会長は晩年の魯山人と交友があったと聞いています。家屋は老朽化が激しく、〝文化財〟級の維持管理をしています。内部の一般公開はしていません」

魯山人の陶磁作品は二〇万点におよぶとされるが、生前、その評価はさほど高くなかった。孤高の性格ゆえに人間関係では衝突も多く、四回の結婚と離婚を繰り返した。生活は楽ではなく、出入りの魚屋に支払う金がなく、自作の皿で弁済することもしばしば。ところが、没後は一変。バブルの絶頂期には作品一点が四〇〇〇万円にも。もし、魯山人が健在だったらどう受け取るか。焼き物の出来に迷う陶工たちを、

「一〇〇年先、二〇〇年先を見ろ」

と一喝した魯山人のこと、節操のない浮き世の毀誉褒貶など、どこ吹く風であろう。

▲星岡窯・慶雲閣。面積108.9平方メートル。神奈川県の旧家にあった古建築を移築したもの。

朝日新聞社

▲東京上空の大気採取（6月20日）東京市衛生試験所がテスト採取。立川飛行場付近の高度300・500メートルの2ヵ所で空気を集め、大気中の汚染を分析する本格的な調査に乗り出した。

日本近代文学館提供

▲文士、引っぱりだこ（6月）前年発刊の改造社「現代日本文学全集」に始まる「円本ブーム」に乗り、各地で講演会開催の「文藝春秋」講演部も大忙し。写真は東北に向かう、左から菊池寛、川端康成、（一人おいて）横光利一。

▼スター志願（6月14日）松竹キネマを辞めスター・プロ、諸口十九社を設立した俳優、諸口十九と筑波雪子（右と中）が、東京・帝国ホテルで女優採用試験を実施。25人採用のところに約250人が殺到した。

毎日新聞社

▶大日本紡績、大争議（6月11日）東京・南千住の工場で組合加入と、待遇改善を求め、従業員がストに突入。会社側の逆封鎖で寄宿舎に女子工員が監禁される事態も。翌月18日、調停が成立した。

「歴史写真」

▼山梨半造大将、張作霖と会談（6月14日）張の傀儡化をはかる「田中首相の密使」と言われ、この日、北京で密談。18日、張は軍政府を樹立し、大元帥に就任。左から3人目が張、その右が山梨。

▼アムンゼン来日（6月20日）世界で最初に南極点到達という偉業を達成した、ノルウェーの探検家が横浜に入港、22日に天皇に拝謁した。写真は26日、大阪・弁天座の文楽見物後、人形と交歓するアムンゼン（54）。

「歴史写真」

昭和2年6月

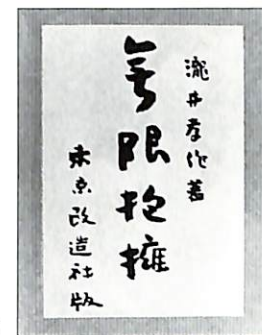
- 1（水）●立憲民政党、結成大会。総裁・浜口雄幸。立憲政友会とともに二大政党時代へ。
  ●航空法施行。民間航空行政の基本法。
- 2（木）●横浜で大横浜建設記念式を挙行。
  ●高橋是清、大蔵大臣を辞任。後任に三土忠造。
- 3（金）●市川右太衛門プロの初映画「浄魂」封切。
- 4（土）●内務省、汽車から自動車重視に輸送政策転換。
  ●大阪市営地下鉄事業が認可される。
- 5（日）●奥むめおら関東消費組合連盟婦人部を結成。
- 6（月）●前年の福岡連隊事件で水平社社員に懲役刑。
- 7（火）●東京・芝で軒灯から盗電した理髪師が感電死。
- 8（水）●岡本綺堂原作の「修禅寺物語」、パリのコメディ・シャンゼリゼで上演される。
- 9（木）●日本プロレタリア芸術連盟分裂（19日青野季吉らは労農芸術家連盟結成、11月再分裂）。
- 10（金）●東京で大日本職業指導者協会発足。
- 11（土）●東京電信局に自動電信交換機を設置。
  ●大日本紡績の工員三二〇〇人、ストに突入。
  ●独で第一次大戦後初のフランクフルト博開幕。
- 12（日）●上海で山東出兵反対大会を開催（26日対日経済断交同盟結成。日本の綿製品輸出に打撃）。
- 13（月）●鉄道省、欧亜連絡鉄道改定運賃を発表。東京―ベルリン間、三等が七八円五二銭など。
- 14（火）●大審院、伏石訴訟で地主が小作料不払いに対して差しおさえた稲の刈り取りに窃盗罪判決。
- 15（水）●函館港に浮ドックが完成し進水。
- 16（木）●仙台の二高寮生、校長排斥訴え同盟休校。
- 17（金）●三重・玉滝銀行の頭取が銀行破綻を苦に自殺。
- 18（土）●張作霖、北京に軍政府を組織し大元帥に就任。
- 19（日）●小樽市で沖仲仕スト拡大。市内諸産業が停止。
- 20（月）●ジュネーブで日米英海軍軍縮会議、開催（8月4日、三国対立のまま休会）。
  ●柳宗悦『雑器の美』発刊。民芸運動の端緒。
- 21（火）●多摩陵前に売店続出で警視庁が取締規則制定。
- 22（水）●ノルウェーの探検家アムンゼン、天皇に謁見。
- 23（木）●福岡中学校全焼。放火容疑で生徒一五人引致。
- 24（金）●鳥取県賀蚊屋の小作争議、警官隊一〇〇〇人と衝突、二〇〇人の大量検挙（26日、妥結）。
- 25（土）●帝国劇場から初めて芝居を無線ラジオ中継。
- 26（日）●パラチフス発生の上野・精養軒を警察が消毒。
- 27（月）●外務・軍首脳ら、中国問題を協議（東方会議）。
- 28（火）●中学では一割の二万五〇〇〇人が中退と判明。
- 29（水）●臨時閣議、川崎造船所救済で紛糾（翌月断念）。
- 30（木）●東京市会、火災報知器設置案を可決。

ベストセラー
大家の遺稿『侏儒の言葉』と新鋭の『伊豆の踊子』刊行!

この年七月に服毒自殺をとげ、人々に強い衝撃を与えた芥川龍之介の遺稿集とでも言うべき『侏儒の言葉』が、一二月に刊行された。芥川が得意とするアフォリズム集で、雑誌「文藝春秋」に連載されていたものに、生前未発表のものなどを加えて、B6判二二〇ページの堂々たる本になった。全ページを罫で囲ったデザインで、重厚な印象を強めている。

その中身は辛辣な世相批判や鋭い文明批評であり、時代の雰囲気と、それに対抗して生きる作家の迫力を感じることができた。たとえば、〝公衆は醜聞を愛するものである……醜聞の中に彼等の怯懦を弁解する好個の武器を見出すのである。同時に又実際には存しない彼等の優越を樹立する、好個の台石を見出すのである〟(「醜聞」)、〝輿論は常に私刑であり、私刑は又常に娯楽である〟(「輿論」)、〝危険思想とは常識を実行に移さうとする思想である〟(「危険思想」)、〝何かの拍子に死の魅力を感じたが最後、容易にその圏外に逃げることは出来ない〟(「死」)といった警句が記されていた。

◀『侏儒の言葉』(文藝春秋社、2円20銭)
日本近代文学館提供(3点とも)

なおこの本には「芥川龍之介著書目録」がついており、まさに追悼の書でもあったのである。

一方、当時新進気鋭の作家として注目されていた川端康成の、代表作のひとつ「伊豆の踊子」を含む同名の短編集がこの年刊行されている。高校生が旅の途中で出会った若い踊り子と、仄かな恋情を交わす青春小説で、高校生の目に映った踊り子の可憐な姿が強く印象に残る作品だった。後に何度も映画化されている。この作品集にはほかに「孤児の感情」や「十六歳の日記」「青い海黒い海」などが収録された。

また、俳人でもあった滝井孝作の自伝的小説『無限抱擁』がこの年刊行され、評判を呼んだ。大正一〇年から一三年にかけて雑誌に発表されてきた四つの短編を合わせて、一編の長編小説にしたもの。主人公・信一と彼が吉原で見初めた松子との間の恋と生活が、率直に描かれていた。

▲『伊豆の踊子』(金星堂、1円50銭)

▶『無限抱擁』(改造社、2円)

スターと名場面
河部五郎主演「砂絵呪縛」が切れ味のよい演技で大好評

この年、邦画では日活の時代劇スター・河部五郎主演の「砂絵呪縛」(高橋壽康監督)と、同じ日活の新スター・大河内傳次郎主演の「忠次旅日記」(伊藤大輔監督)が公開され、スター交代を予感させた。「砂絵呪縛」は将軍・綱吉の後継者争いを題材に、恋をからませた大衆小説の映画化で、河部五郎の切れ味のよい演技を楽しむことができた。

洋画では恋愛映画「第七天国」(フランク・ボーゼイジ監督)が公開され、多くの人を感動させた。第一回アカデミー賞の監督賞、女優賞、脚本賞を受賞したこの作品は、社会の下層で真面目に生きる若い男女の恋を描いたものだが、二人の仲が戦争によっていったんは引き裂かれる展開も、人々の涙を誘った。

また中年男の恋を描いた「ヴァリエテ」(E・A・デュポン監督)は、芸人の世界を舞台として、若い女に心を奪われやがて裏切られていく男(エミール・ヤニングス)の悲しみがしみじみ伝わってくる映画で、大いに評判になった。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「彼をめぐる五人の女」(岡田時彦)

「ボー・ジェスト」(ロナルド・コールマン)/「ビッグ・パレード」(ルネ・アドレ)

マツダ映画社提供(3点とも)

▲「砂絵呪縛」で活躍した河部五郎(左)と酒井米子(右)。

▶「第七天国」で感動的な恋を演じて見せたチャールズ・ファレル(左)とアカデミー賞を受賞したジャネット・ゲイナー(右)。

◀「ヴァリエテ」でその魅力を見せつけ、人気スターになったリア・デ・プッティ。

モノ語り'27
生活の洋風化・合理化に対応!「スーパーアイロン」「二号自動式卓上電話機」「ゴーフル」

◀**肌を守る化粧品が人気獲得** 皮膚を荒らさず、しかも脂肪やそのほかの汚れ、付着物を除去する効果を持つとされた「美白液ウテナ」が、久保政吉商店(現・ウテナ)から発売され人気を呼んだ。1円から各種あったが、広告に水谷八重子を使って、さらに愛用者が広がった。なおこの商品は、はがきを出すと説明書一式が送られて来て、あらためて注文するという販売方法で、通信販売の先鞭をつけた。この販売方式で、美白液は順調に売れ行きを伸ばしたのである。

◀**価格破壊の先駆者** 電気アイロンがまだ高級品だった時代に、松下電気器具製作所(現・松下電器産業)はこの年4月、安くて品質のよい「スーパーアイロン」を製造・販売した。同じ年の1月に〝誰でも買える電熱器〟をめざして電熱部を創設、新しい電気アイロンの開発に取り組んでいたもの。ヒーターを鉄板で包んだ構造で、価格は3円20銭。当時としては破格の値段で、業界にも多大な影響を与えた。

◀**フランスのお菓子が和風に** 神戸凮月堂が、大正初期に客からフランスの「ゴーフル」を日本でも作ってはどうかと勧められ、開発に取り組んでいたが、この年ようやく発売にこぎつけた。「ゴーフル」の長所を生かすとともに、日本人の嗜好に合うようにと、和菓子のよさを取り入れるのに時間がかかった。発売してからも、1日わずか800枚程度しか作れない貴重なお菓子だった。1枚8銭。

▲**セルロイドが万年筆にも用いられた** エボナイト製の万年筆が一般的だった時代に、新素材のセルロイドを用いた万年筆の第1号「ベスト型T式スタンダード」が、並木製作所(現・パイロット)から、1本3円50銭で発売された。素材のセルロイドは、自社生産が間に合わず輸入していたが、出来上がりの評判はかならずしもかんばしくなかった。しかし昭和10年頃までには改良も進み、従来のエボナイト製との関係が逆転。新製品はすべてセルロイド製という、新時代に入っていくのである。
パイロット筆記具資料館蔵

▶**流感の猛威で売れた水枕** 前年からの流感は、昭和2年1月までに死者1700人を数えるほどの猛威をふるった。この流感に対抗すべく売れたのが、熱さましに効果的な水枕で、中でも大正12年に売り出されていたダンロップ護謨(現・ダンロップホームプロダクツ)製の「ダンロップ水枕」は評判がよく、ベストセラー商品となった。価格は4円50銭と高価で、当時の男性用革靴や掛け時計とほぼ同じ価格だった。

国産水枕の最先端

明治末から大正時代にかけて、日本のゴム工業は飛躍的な発展をとげた。その中でもコンドームやカテーテルなど、広い分野での医療用ゴム製品は需要も大きく、品質も次第にアップしていった。「ダンロップ水枕」もそのひとつで、金型使用によってシームレス(継ぎ目なし)化に成功したもの。そのうえ、表面に矢羽根の型押し模様や、下のようなダンロップの肖像画、英語で書かれた使用上の注意が刻まれるなど、デザインも斬新なものだった。締め具には、〝コマつき締め金〟をつけて、不都合が生じないように万全を期したが、ゴム製品全般に対するユーザーの信頼度を高める効果もあった。

◀「ヒゲサン」マークをつけて品質のよさと確かさを誇った。

◀**どんどん便利になっていく電話** 交換手を介さずに、ダイヤルで相手を直接呼び出せる自動交換システムが、大正末に導入された。しかしその1号機には雑音が入るなどの欠点があり、これを改良したのが「2号自動式卓上電話機」で、この年発売された。なおこのタイプの電話機(送話器と受話器が別)としては、最後の機種になった。 逓信総合博物館蔵

▶「あゝ玉杯に花うけて」について、「少年讃歌」「一直線」などを発表。一躍流行作家となり、少女小説の分野でも「毬の行方」「朝の雲雀」を書いた。 佐藤愛子提供

人物クローズアップ

佐藤紅緑（五二）

勇気、忍耐、友情の尊さを教えた「あゝ玉杯に花うけて」連載開始

◀多くの少年読者をひきつけた、「あゝ玉杯に花うけて」の連載第1回挿絵。斎藤五百枝画。

「豆腐屋のチビ公はいまたんぼのあぜを伝ってつぎの町へ急ぎつつある。……」

昭和二年五月一日発行の「少年倶楽部」五月号から連載が始まった、佐藤紅緑（五二）の「あ、玉杯に花うけて」の冒頭である。「チビ公」こと青木千三は、秀才だが家が貧しくて中学に行けず、叔父の家で豆腐売りを手伝っている。その彼を励ます親友の柳光一たち。いろいろな嫌がらせにもくじけず、彼は夜学にかよいながら、柳らの励ましにこたえ、みごと一高に入学する。

友情、義侠、師弟愛、立身出世をテーマにしたこの小説の反響は大きく、連載は翌三年の四月まで続けられて、「少年倶楽部」の発行部数は三〇万部から四五万部にはね上がった。佐藤はその後も、「少年讃歌」「一直線」「少年聯盟」などを連載、少年小説の大家に位置づけられるとともに、「少女倶楽部」にも連載を執筆、少女小説の分野でも多くの読者を獲得していった。

佐藤紅緑は、明治七年七月六日、青森県弘前市生まれ。本名は洽六。子どもの頃は乱暴者として周囲に知られ、一日に一度は血だらけになるほどの喧嘩をした。学校が嫌いで、休んでは野山を駆けまわり、空想にふけった。束縛されるのがいやで、教師と巡査は大嫌いだった。東奥義塾（現・東奥義塾高校）を二年で追い出され、移った弘前中学（現・弘前高校）でも、四年で退校処分になった。

明治二六年、一九歳の時に父親に無断で東京へ出奔する。落ち着いたところが、佐藤の親戚で新聞「日本」を主宰する陸羯南の家だった。佐藤はこの家の玄関番になり、翌年「日本」新聞に入社、そこで俳句欄を担当する正岡子規を知る。紅緑は子規が佐藤につけた雅号である。子規の手ほどきで佐藤の才能は開花し、俳句は佐藤の文学的な骨格を形づくった。

二八年、弘前に帰郷。政治に強い関心を持ち、以降、多くの新聞社を転々としながら新聞記者生活を送る。

気性の激しさから、会社勤めが長続きしない佐藤の生活の基盤は、俳句に移った。数冊の俳書を刊行するとともに、新聞の俳句選者となり、自宅で「俳句研究会」を主宰した。しかし、佐藤の活動はそこだけにとどまらず、演劇、小説、映画へと拡大していく。

「婦人倶楽部」「講談倶楽部」「キング」など、大日本雄弁会講談社の雑誌に小説を書き始めたのは、大正一三年頃からだった。そんなある日、「少年倶楽部」編集長の加藤謙一が佐藤を訪ねる。少年小説を書いてもらえないか、という依頼に、佐藤は「この俺にハナタレ小僧の読む小説を書けというのか」と顔色を変えて怒る。加藤は説得し続けた。こうして「あ、玉杯に花うけて」は誕生した。

佐藤の末子で作家の佐藤愛子氏は語る。「加藤さんの説得で、少年に対する紅緑の情熱が呼び起こされたのでしょうね。しかも反響が大きかったことで、紅緑はますます情熱をこめて書いたと思います」

読者を愛した父・紅緑について佐藤愛子氏は、「彼は少年に勇気、忍耐、友情の尊さを教えようとした。貧乏は恥ではないこと、正直で勤勉な鈍才は鋭才に劣らぬこと、貧しくとも世の中の悪と戦うことはブルジョアの安穏な生活よりも優ること……」と書いている（『花はくれない』）。

佐藤の文学は、"国のため"という主題で貫かれている。第二次大戦後、日本の現実は佐藤の文学とはかけ離れたものになった。そうした日本にいまわしさを感じながら、昭和二四年六月三日死去。七四歳だった。

▲昭和4年10月、阪神沿線、鳴尾村西畑の自宅にて。右から紅緑、愛子、早苗、万里子夫人。 佐藤愛子提供

決定的瞬間

世界初の水中カラー写真 フロリダ沖合の熱帯魚や揺れる海藻をとらえた！

左の写真はダイビングで有名な、フロリダ・キーズ（フロリダ半島の沖合）の珊瑚礁で撮影された海底写真だ。美しい熱帯魚が珊瑚の間を回遊しているが、画像は暗くて少し青みがかっている。もっと鮮明で美しいカラー写真を見慣れている私たちの目には、ものたりないかもしれない。しかし、この写真が一九二七年一月の「ナショナル・ジオグラフィック・マガジン」に掲載されたものであることを知れば、納得するだろう。

同誌では、一九一六年の四月号で、オートクローム乾板を使って撮影したカラー写真を二三点掲載して、話題を集めた。以後、各地での珍しい風習や風景をカラーで紹介するようになったが、それから一〇年余、海底のカラー撮影に挑戦したのがこの写真である。

掲載された八枚のカラー写真を撮るために、スタッフは数ヵ月の日数をかけ、さまざまな工夫をしている。魚類学者のW・H・ラングレー博士と同誌写真研究班のチャールズ・マーチンは、光が減少する海底での撮影を可能にするために、いかに高感度な感光板（フィルムに相当するもの）を使用し、ストロボを有効に使うかということに腐心した、と報告している。海底では太陽光が水に吸収され、五㍍で赤、一〇㍍でオレンジ、二〇㍍で黄、と色が消えていく。このため、十分な光を補ってやらなければ、魚や珊瑚の色は表現できないのだ。

当時の感光材は、フランスのリュミエール社が発売していたオートクロームというカラー写真乾板を使用していた（一九〇七年に発売開始、一九三七年コダクロームが発売されるまで市場を独占）。このオートクローム乾板は、ガラス板に三色の原色で染色された澱粉粒子を塗りつけ、圧縮し、パンクロ乳剤をその上に塗って作られたもので、当時としてはきわめて便利なカラー写真乾板であった。露出に必要な時間は、直射日光下で二分の一秒程度。海底では陸上よりも格段に暗くなるので、もっと時間がかかったはずだ。だから、動きまわる熱帯魚をとらえ、潮に揺れる海藻を写すむずかしさは並大抵ではなかった。

▲輪郭が曖昧なフエダイ科のグレイスナッパー。

▲タイ科の魚よりも、珊瑚の方がなまなましく写っている。

▲ベラ科の魚、ホグフィッシュ。雑誌掲載時のキャプションには、グレイの模様と説明されている。 ナショナル・ジオグラフィック・マガジン／アメリカンフォト・ライブラリー（4点とも）

水中写真では二五年のキャリアを持つ「マリンダイビング」編集部の鷲尾絖一郎氏は、「クストーがアクアラングを開発したのが一九四三年ですから、それ以前ですと潜水ヘルメットをかぶって潜っていたのでしょう。カメラの機材も大きく、ストロボをたきながら撮影するというのは口で言う以上に大変なことですね」と、スタッフたちの苦労を推測する。

実際、潜水用のヘルメットが大きく、ハウジング（カメラを入れる防水の器材）と体がぶつかり合って、カメラが自由に動かせなかったりした。またストロボは海底から合図を送り、船の上で待機するスタッフがマグネシウムをたくという方法で行っていたが、撮影対象が現れないと数時間も待機したままで、必要な時にはタイミングが合わず失敗の連続であったなど、数々のエピソードが報告されている。海の宝石と言われる熱帯魚を印画紙の上にすくいあげるには、最先端の写真技術のほかに、命がけの情熱が求められていたのだ。

▲フエダイの群れに、ヒメジが1匹まじっているのがわかる。

▶鏑木清方の「築地明石町」。絹本著色、一七四×七四センチ。帆船のマストが見えるハイカラな街を背景に、洋髪の粋な女性が足をとめる。その凛とした佇まいが何とも言えず美しい。
個人蔵

美の出会い

近代日本画の到達点を示す 鏑木清方の「築地明石町」第八回帝国美術院賞に輝く

昭和二年一〇月一六日から一一月二〇日まで、東京・上野の東京府美術館で、第八回帝国美術院美術展覧会が開催された。すっかり上野の名物となった帝展のにぎわいは、この年は最高に達し、一四万九一三四人の入場者数を記録。今回は審査員の作品も出品され壮観だったが、中でも最高の賞である帝国美術院賞に輝いた鏑木清方（本名・健一＝四九）の「築地明石町」は多くの人々の注目を集めた。

今日、誰もが認める近代日本画の、ひとつの到達点を示す傑作が、ここに誕生したのである。近・現代の日本画を体系的に収蔵している山種美術館の学芸員・川口直宜氏は次のように語る。

「『築地明石町』は清方の代表作にとどまらず、明治以降、近代日本画の美人画、人物画、風俗画の三つのジャンルすべてにわたり、最高峰の作品です」

▲清方の画には、明治という時代への愛惜の念がこめられている。

舞台となった明石町は、大正期まで外国人居留地があった隅田川べりの街である。この明石町の近くの木挽町などを転々として育った清方にとって、作品のモチーフは幼少の頃からつちかわれていた。また、ふだんモデルを使わない清方にしては珍しく、友人の作家・泉鏡花から紹介された江木ませ子をモデルにした。後に清方は自作を解説して記している。

「佃の入り江に錨を下す帆船の林立したマスト、ペンキ塗の木柵に絡む朝顔の小さな花、海から吹く秋風に袖を掻き合わせた洋髪の女、こんな構想の浮かんだのは、牛込の矢来へ龍岡町から移った翌年、昭和二年の新居初めての帝展作であった」（『画集鏑木清方』毎日新聞社）

この年の一一月に刊行された月刊美術誌「美之国」（第三巻第九号）は、帝展特集を組み、「築地明石町」について四人の感想を載せている。

「健ちゃん大出来である。会場は群集にほこりが立つても、明石町の婦の褄には、水際が立つて居ませう」（泉鏡花）

「あの絵の前に立つた時、何とも云へぬスーッとした感じがし、些しもこだはりのない興味を覚えた」（川合玉堂）

「言葉では、表現しがたい一種の都会情景が多分の品調を以て描き出されてゐるところに無限の味ひ、魅力を感じます」（竹内栖鳳）

「我々田舎つぺいには全くあゝ云ふ気持の絵は描けません」（前田青邨）

小説や日本画の大家四人が、いずれも気取りのない素直な感想をもらしている。誰もが清方の到達した境地に注目し、魅せられていたことがうかがえる。

鏑木清方は、明治一一年八月三一日、東京の神田佐久間町に生まれた。父の条野採菊は文人で、「東京日日新聞」の創立に参加。その後、「やまと新聞」の経営者、ジャーナリスト、文筆家として活躍した。「やまと新聞」は三遊亭円朝の噺と月岡芳年の挿絵があたって大人気を誇っていた。そうした環境の中で育った清方は、小説家を志望するが、父に反対され、芳年の弟子・水野年方について挿画家への道を選んだ。

一六歳で清方は「やまと新聞」の挿絵を手がけ、やがて「東北新聞」や雑誌の挿画家として、人気を得ていく。その後、泉鏡花『起誓文』や島崎藤村『破戒』などの挿絵を描き、日本画で名声を確立した後も、挿画家としての意識を忘れることはなかった。一方、文筆にも優れた清方は、随筆集『こしかたの記』（昭和三六年）など、江戸・明治文化の面影を伝える貴重な文集を残している。

「築地明石町」以降も、青年時代から身近に接していた三遊亭円朝の肖像（昭和五年）や、清方が愛読していた樋口一葉の肖像（昭和一五年）など、近代肖像画の傑作を発表。昭和二九年には文化勲章を受章する。そして昭和四七年、九三歳で生涯を閉じた。「ただ鑑賞にのみ通ふ画境は決して望むところではない」と言う清方は、東京下町に息づく懐かしい人々や風俗に対して、限りない愛情をこめて描き続けた市井の画家であった。

◀「三遊亭円朝像」。昭和5年。絹本著色、138.5×76センチ。すでに亡き円朝の面影を、敬愛をこめて描いた。庶民的な親しみやすさも感じられる作品。
東京国立近代美術館蔵

靴下博物館

“黄門さま”の愛用品や「軍足」のもうひとつの使い方など、面白情報づくし

神奈川・横浜市

桑原茂夫

◀水戸黄門が愛用した靴下の複製。発見された記録に基づいてナイガイの技術陣が正確に複製したところ、かなり立派な靴下が出現した。 椎野充

大正九年（一九二〇）創業、当時の靴下専門メーカー、ナイガイの敷地内にこの「靴下博物館」がある。広さこそ六〇平方メートルたらずの小さな博物館だが、その中身は靴下についての認識を改めさせられるほどに濃く、また面白い。

収蔵点数二万三〇〇〇点のうち、展示されているのは二百数十点。戦前から戦後へと大きく変わった靴下の歴史を、実物の展示でたどるコーナーのほか、靴下編み機から生まれた各種製品（便座カバーやゴルフのヘッドカバー）のコーナー、靴下の素材を展示したコーナー、徳川光圀（水戸黄門）をはじめ、有名人のはいていた靴下を見せるコーナーなどがある。館外には昔の靴下編み機が、一見、無造作におかれており、展示室の裏側には、靴下がびっしり詰まった棚が設けられている。まさに靴下づくしなのである。

そのひとつひとつについて、パネルで説明するのもむずかしいし、小規模博物館なのだからというわけで、館長の中村毅人さんみずから、来館者の求めに応じて解説してくれる。

▼靴下が滑り落ちるのを防ぐ工夫。中央は、ふくらはぎで留める方法である。

たとえば、戦前の靴下コーナーに、靴下独特のライン、つまりかかとで折れ曲がるスタイルを持たない太い棒状の靴下があるが、これをケースから取り出して次のような話をしてくれるのである。

これは陸軍が使っていた「軍足」で、陸軍はとにかく歩くのが基本だったから、靴下も丈夫でなければならない。普通のラインを持つ靴下だと、いつも同じ部分に負担がかかり、必然的に破れやすくなる。棒状であれば、負担のかかる部分をずらしながら使うことができ、その分、長持ちさせることができる。また暗闇の中でも、どっちが前か後ろかを迷うことなくサッとはける形状であることや、米などを持ち運ぶ小袋として転用できたことも、軍足として重宝がられた理由にあげられている。

しかしもちろん、靴を履くには不自然な形状なので、だぶついた部分は強引に靴の中に押しこむことになる。すでにかかとのある靴下もデザインされていたのだから、そんなに無理をすることもなかったのだが。

ところで中村館長によると、靴下は戦後になって急激な、しかも大きな変革期を迎えた。ひとつは、昭和二三年のゴム入り靴下の開発である。これによってガーターなどが不要になった。次が昭和二七年のナイロン靴下の開発で、靴下はこれで断然強くなった。そして昭和四六年のコンピュータ編み機の登場である。これによって、ずいぶん自由な柄を楽しめるようになり、ユーザーの靴下に対する意識変革も起こってきた。中村館長の見方では、コンピュータ編み機は、靴下の長い歴史の中で最大級の変革をもたらした機械なのである。

靴下から広がる世界は面白い。もっと知りたい気持ちにさせる博物館だった。

●靴下博物館——坂田記念資料館
神奈川県横浜市港北区綱島西五—四—五
㈱ナイガイ横浜センター技術部
☎〇四五—五四一—四二五七
東急東横線綱島駅下車。バス三、四番に乗車、吉田口下車。徒歩二分
開館時間＝一〇時〜一七時
休館日＝土、日曜日。祝日
入館料＝無料。要電話予約。

▲展示室の裏にある棚には、びっしり靴下が並んでいる。

▲昭和53年に設立された小さい博物館だが、展示品の一点一点に面白いストーリーが秘められている。

▲扁平に編まれた陸軍の「軍足」を手に、説明する中村館長。すぐ下にあるカラフルな靴下は、昭和4年に売り出された「ダービー靴下」。

調査開始後6ヵ月、発見された1本の歯 洞窟内での50万年の眠りからさめて「北京原人」、周口店から出土！

▲1921年、老牛溝の「見捨てられた採石場」跡で試掘を行うツダンスキー博士（左端）。

▲12月2日の夕刻、垂直の深い穴の底で、裴文中はこの頭蓋骨を発見し、3日の朝、ブラックに電報を打った。

▶女性の「北京原人」の復原頭骨に基づいて制作された胸像。性別と年齢は、頭骨と歯から推測できた。

一九二七年秋、北京郊外の周口店で、五〇万年前に生存していた人類の祖先、「北京原人」の下顎の臼歯が発見された。それは、二年後の頭蓋骨発見への大きな手がかりとなり、人間が神の創造物ではなく、猿から進化したとする人類進化の道筋を証明する画期的な出来事であった。

裴文中が掘りあてた完全な頭蓋骨の標本

一九二七年四月一六日、ロックフェラー財団から二万四〇〇〇ドルの基金援助を受け、本格的な化石人類の発掘作業が実行に移された。現場は北京市の南西約五〇キロの周口店にある、老牛溝の鴿子堂洞窟である。

発掘チームのリーダーは、北京協和医学院の解剖学教授でカナダ人のデヴィッド・ブラック。彼は中国地質調査長の丁文江、スウェーデンの古生物学者・ボーリンらを加え発掘チームを編成した。

まず最初に東西一七メートル、南北一四メートルにわたる厚さ一七メートルもの洞窟内の堆積土が取りのぞかれた。その後、発掘が続けられ、掘り出された堆積物は、約三〇〇〇

立方㍍にも達し、その一部には熊やハイエナ、水牛や猫など、おびただしい化石が含まれていた。

人類の歯が発見されたのは、作業開始から六ヵ月後の一〇月一六日、発見者はボーリンである。彼は発見すると、すぐに作業服のまま汽車に乗りこみ、北京協和医学院で発掘作業を指示していたブラック教授のもとに駆けつけた。

「ブラック先生、とうとう見つけました。人類の歯に間違いないと思います」

ボーリンは、内ポケットから布でぐるぐる巻きにした小箱を取り出し、紐を解いたが、その手は小刻みに震えていた。

ブラックの胸は高鳴った。現場で、しかも学者がみずから見つけたものこそが、一級の価値を持つことが多いからだ。発見された歯は、下顎の左側第一臼歯で、多少磨滅していたが、残存状態は非常によいものであった。ブラックはその歯を、類人猿チンパンジーの歯などと注意深く比較研究し、一九二七年一二月、「周口店の堆積中のヒト科の下臼歯」と題して、「中国古生物誌丁種」に発表した。こうして、「北京原人、シナントロプス・ペキネンシス」が誕生したのである。

一九二七年に引き続き、翌一九二八年も発掘作業は続けられた。発掘には新たに生物学者の楊鍾健と、北京大学地質学部を卒業したばかりの裴文中（当時二四歳）が協力することになった。

一九二九年に入ると発掘作業は、裴文中の双肩にゆだねられた。四月下旬に作業が始まってまもなく、彼は人類の頭蓋骨の断片を発見した。現場は活気づいた。

当時中国は国民党の蔣介石、馮玉祥や張作霖などの軍閥抗争が繰り広げられ、その余波が周口店におよび、一時作業は中断されたが、この年の発掘作業は二四週間、掘った堆積物は二八〇〇立方㍍、採取した資料は五七五箱と膨大なものであった。

そのクライマックスは、一二月二日の午後四時頃。風雪がひどくなり、土地が凍り始めたため、発掘を中止し北京に引き揚げる矢先のことであった。

裴文中のショベルが、黒っぽい丸石のようなものを掘り起こした。出土する際一部が割れたものの、それはほぼ完全な「北京原人」の頭蓋骨であった。

発掘者たちは狂喜乱舞した。その様子を五〇万年の眠りからさめた頭蓋骨が、じっと見つめていたのである。

▲発見された頭蓋骨は湿っていて、触るとくずれてしまいそうなほどだったので、一晩かけて炭火で乾かした。12月3日、裴文中撮影。

▲乾くと水につけた綿紙を幾重にも貼り、その上に麻の入った石膏を塗りつけ、また火であぶる。裴文中はそれを自分の蒲団でくるみ、縄で縛った。

▲北京市内に持ち帰る前、石膏を塗った頭蓋骨を手にした裴文中。

▲「北京原人」遺跡を発掘したメンバー。写真左端が裴文中、3人おいてボーリン、その右がブラック。1928年、周口店の旅館前で。

太平洋戦争の勃発で発掘物が行方不明に

「北京原人」の発見に道を開いたのは、スウェーデンのストックホルム大学で地質学を学び、国立地質調査所長をつとめたヨハン・アンダーソンであった。アンダーソンが北京に着いたのは、一九一四年五月、当時の北京政府（袁世凱）に招かれたのである。目的は中国政府の地下資源開発を推進するためであったが、アンダーソンの関心は次第に新石器時代の遺跡へと移っていった。そして一九一八年二月、北京の王府井の路上で「周口店の鶏骨山から鳥の化石が出る」という噂を聞いたアンダーソンは、翌三月、その場所を訪れることになった。

その後、一九二一年夏、オーストリアの古生物学者・ツダンスキーを迎え、協力して鶏骨山の発掘を進めるうち、ある村人から老牛溝からはもっと骨が出ることを教えられ、新地点の調査が始まった。

とりわけアンダーソンの目を引いたのは、石英斑岩の破片であった。彼はそれが太古の祖先が使ったものとの思いを強め、発掘作業をツダンスキーに引き継いだ。そして、ツダンスキーが帰国した後、ブラックらの本格的発掘作業で北京原人の存在が確認されたのであった。

「北京原人」の発見は、人類史上どのような意義を持っていたのか。

「ひとことで言えば、ダーウィンの人間に関する進化論を初めて完全に証明したということです。一八九一年、ジャワ島でピテカントロプス・エレクトゥスの頭蓋骨らしきものが発見されましたが、ヒトか猿かの結論は出ていなかった。しかし『北京原人』の存在は、人間が猿から進化したものであることを世に認めさせることになりました。とりわけ、神が人間を造ったとする、それまでの人間存在に対する理解をくつがえしたということは、画期的なことでした」

こう語るのは、国立科学博物館人類研究部長で医学博士の馬場悠男氏である。

北京原人の頭蓋骨の容量は、八五〇～一二〇〇で現代人の三分の二に相当していた。四肢骨もほぼ現生人類と変わりなく、五〇万～二〇万年前に生存した人類の祖先だった。

しかし、一九四一年一二月八日、太平洋戦争が始まるや、「北京原人」は保存されていた北京協和医学院から忽然と姿を消した。模型の複製標本が残されていたのは不幸中の幸いであったが、ひそかにアメリカに持ち運ばれた、盗み出され市中で薬として売られたなど、諸説が飛びかったまま、いまだその真相は謎のままである。

▲消えた標本が運びこまれた可能性がある秦皇島の米海軍キャンプ。

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

朝日新聞社

▼京都帝大に日本一の望遠鏡（7月20日）理学部が、口径45センチの屈折望遠鏡を設置（写真）。昭和4年には、京都市南東部に新設した花山天文台に移した。

朝日新聞社

▲旅客機、初飛行（7月12日）日本航空会社の飛行艇「なには号」が、14人を乗せ、大阪―別府間を往復。写真は8月、東京・大森海岸で。翼長21.5メートル。

朝日新聞社

◀昭和天皇、小笠原行幸（7月30日）父島の大村波止場に、御召し艦「山城」から、純白の海軍の制服で降り立った。翌日には母島を訪問、26歳の若き天皇による全国巡幸の始まりだった。

朝日新聞社

▼松島遊廓事件、初公判（7月11日）傍聴席は満席。前年に発覚した松島遊廓移転をめぐる汚職事件で、関心の高さを見せたが、結審後の有罪は二人だけだった。写真は、退廷する被告たち。

▶共産党幹部、モスクワに集合（7月15日）コミンテルンが中央委員を招集、「27年テーゼ」を決めた。写真はレーニン廟前で。左から、徳田（二人おき）渡辺、片山、鍋山（一人おき）福本、佐野。

◀スカルノ、国民同盟結成（7月4日）インドネシアの解放と独立、対オランダ非協力を掲げ、民族運動を進めた。左から3人目がスカルノ（26）。

横堀洋一提供

昭和2年7月

1（金）●森本六爾ら考古学研究会を設立。
2（土）●選抜優勝の和歌山中野球部、中学生初の渡米。
3（日）●婦人労働者の権利拡大求め関東婦人同盟結成。
4（月）●インドネシア国民党結成。党首・スカルノ。
5（火）●閣議、陸軍の強い要請で第二次山東出兵を決定（8日、陸戦隊八〇〇人済南に進出）。
●東京で猫一万二〇〇〇匹窃盗の男を逮捕。
6（水）●米国初の日系人市長、エドモントン市に誕生。
7（木）●田中首相兼外相、「満州」（中国東北部）の分離含む東方会議の結論「対支政策綱領」発表。
8（金）●柳田国男・金田一京助らの民俗芸術の会発足。
9（土）●本郷の下宿屋、近所のラジオの音がうるさく、学生が居つかないとラジオ騒音訴訟を起こす。
10（日）●岩波文庫創刊。初回は漱石『こゝろ』など。
11（月）●電話特別開通加入の受付開始。東京以外不振。
12（火）●市川左団次一行、歌舞伎紹介でソ連へ出発。
●日本航空の旅客艇、大阪―別府間を初飛行。
13（水）●中国共産党、独自路線を宣言（国共合作崩壊）。
14（木）●大日本消防協会、全国の消防組頭集め発会。
15（金）●コミンテルン、日本問題特別委開催。福本和夫・徳田球一ら解任。「二七年テーゼ」決定。
16（土）●干ばつの大分県で村民六〇〇人が用水で争う。
17（日）●静岡県で梅毒の父親が遺伝悲観し一家心中。
18（月）●子ども多いと資産減ると孫娘虐待の老女逮捕。
19（火）●東京市、汚染調査で東京上空の空気を採取。
●東京の不正牛乳事件で一四五人起訴。
20（水）●満鉄社長に山本条太郎、副社長に松岡洋右。
●東京で「ハエ打殺しデー」。四六〇〇万匹捕獲。
21（木）●避暑客のため東京―横須賀間に臨時列車。
22（金）●東京で猛暑。七月では三三年ぶり三五度記録。
23（土）●海軍省、川崎造船所に艦船建造部設置し造艦を継続。川崎造船所、三〇三七人を解雇。
24（日）●芥川龍之介、睡眠薬により自殺。三五歳。
●司法省、思想係検事設置。左翼取締り強化。
25（月）●警視庁、悪評が絶えない精神病院の調査のため、斎藤茂吉ら病院長七人を召喚し事情聴取。
26（火）●生糸相場が暴落し七年ぶりの新安値。
27（水）●ルクセンブルクに日本公使館を開設。
28（木）●東京・霊巌寺で一七〇〇年に死去した岡山藩主・池田綱政夫人のミイラ化遺体発掘。
29（金）●湿度計用に仏から初輸入の女性の金髪が通関。
●米の病院で人工呼吸装置「鉄の肺」を設置。
30（土）●天皇、即位後初の行幸で小笠原に到着。
31（日）●大日本排球（バレーボール）協会設立。

CORBIS-BETTMANN／PPS

◀サッコとバンゼッティ死刑（8月23日）二人は7年前、強盗殺人容疑で収監。イタリア人無政府主義者への偏見は根強く、冤罪と叫ぶ世論もむなしかった。

▲ジュネーブ軍縮会議決裂（8月4日）補助艦の隻数・トン数を制限するため、日米英が協議したが、合意できなかった。日本全権は斎藤実、石井菊次郎。

▼関門トンネル基礎調査（8月）この年から開始。写真右はボーリングのための大浮足場。高さ約21メートル。昭和8年には工事完了予定だったが、経済恐慌などのため、19年になってやっと全通した。

▼中学野球実況中継（8月13日）大阪放送局が、甲子園球場の各試合を初放送。初体験の魚谷忠アナウンサーの、実況と原稿を読む中継は失敗、2日目からは実況だけになり、人気を呼んだ。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲コレラ予防に強制注射（8月11日）警視庁衛生部防疫課が、横浜の英国船で罹患者が発見されたために開始。東京湾の水上生活者3万人が対象だった。

朝日新聞社

▶艦艇が、次々に衝突（8月24日）島根県美保関沖で、闇夜に無灯という軍縮後の過酷な演習だった。「神通」（写真）に衝突の「蕨」は沈没。119人が水死した。

昭和2年8月

1（月）●中国共産党、南昌で武装蜂起し独自の革命軍を創設（後に人民解放軍建軍記念日）。
2（火）●佐伯湾で戦艦「常磐」の機雷爆発。八五人死亡。
●警視庁、カフェーを手入れ、モダンボーイ、モダンガール一五〇人を風紀違反で検挙。
3（水）●第一回全国都市対抗野球大会を開催。
4（木）●奉天（瀋陽）総領事・吉田茂、東三省当局に対日政策の反省を強硬に要求。排日運動激化。
5（金）●東京・御茶ノ水駅脇にアーチ橋の聖橋開通。
6（土）●熊本県で大洪水。千余戸浸水、各所で橋崩落。
7（日）●東京で「諸国盆踊の夕」開催。二二〇人出演。
8（月）●関西財界が「対支商権擁護連盟大会」を開催。
9（火）●福岡県飯塚炭鉱で生活難の父が三児を殺害。
10（水）●松方三郎ら新ルートでアイガー登頂に成功。
11（木）●行政審議会、市町村への地租委譲を決定。
12（金）●不良牛乳問題で、小売業者の共同牛乳消毒場「東京ミルクプラント」設置を警視庁が許可。
13（土）●全国中等学校野球大会を初のスポーツ中継。
14（日）●蔣介石、総司令を辞任し下野宣言。
15（月）●森恪外務政務次官、関東軍司令官・中国総領事らと「満州」問題を協議（大連会議）。
16（火）●東洋レーヨン、レーヨン糸の初紡糸に成功。
17（水）●近衛騎兵連隊の二等卒、「馬具紛失」で自殺。
18（木）●自殺相次ぐ山手線駒込駅ホームで追悼会開催。
19（金）●ロシア正教会、ソビエト国家の正統性を承認。
20（土）●デ杯米ゾーンで日本がカナダ破り優勝（27日、決勝ゾーンで仏に敗退、優勝ならず）。
21（日）●初の児童生活展、各国の玩具など展示し盛況。
22（月）●各地で銀行合併進む。青森六行、石川一〇行。
23（火）●米で冤罪のサッコとバンゼッティの処刑強行。
24（水）●駆逐艦「蕨」「葦」、島根県沖で夜間演習中に巡洋艦と衝突、沈没。一一九人死亡。
25（木）●大蔵省と日銀が協議、休業銀行に和議法と破産法適用、「弱小銀行」の整理を促進と決定。
26（金）●教育総監に陸軍大将・武藤信義が任命される。
27（土）●第八回極東オリンピック、上海で開幕。
28（日）●東京横浜電鉄の渋谷―神奈川間（東横線）全通。
29（月）●浅野セメント川崎工場の降灰問題で、町民百五十人余が社長宅へ抗議行動。
30（火）●政府、山東派遣軍撤退を声明（9月8日完了）。
●岡谷・山一林組製糸所の女子工員の一三五七人がスト。製糸業で最大規模（9月16日敗北）。
31（水）●京阪電鉄、日本初のロマンスカーを運行開始。
●初の内閣家計調査。勤労者月収一〇二円七銭。

宝塚歌劇団提供

▼ベーブ・ルース(32)、60本塁打(9月30日) ヤンキースの主砲が、対セネターズ戦で自身の記録を塗り替える新記録。ヤンキー・スタジアムの観衆が総立ちになった。

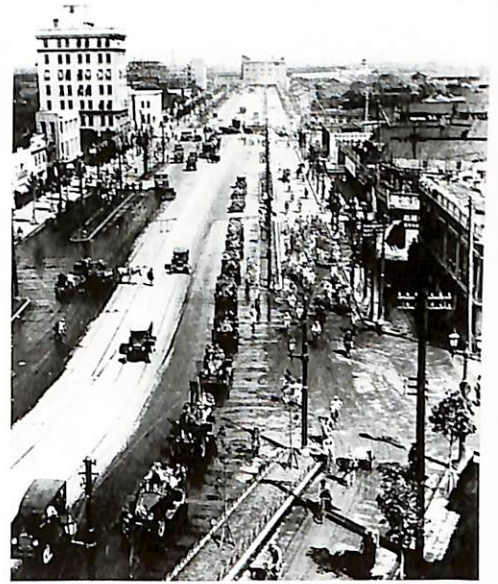
▲宝塚「モン・パリ」公演(9月1日) 岸田辰弥が欧州仕込みの腕を披露。日本初の本格レビューで、幕間なし16場。登場人物数百人の華麗な展開に、客席は超満員だった。

▶和歌山中、訪米記念パレード(9月3日) 春の甲子園大会でエース・小川正太郎の好投で優勝。7月、中学生初の米国遠征に出発、前日帰国した。写真は大阪・御堂筋で。

毎日新聞社

朝日新聞社

▲藤原義江(28)、帰国独唱会(9月4日) 前年から英伊米で活躍、1年ぶりの日本登場だった。日比谷音楽堂を皮切りに全国公演、11月には渡米した。写真は28日、大阪朝日会館での独唱会。ピアノ伴奏は近衛秀麿。

▼安部磯雄の胸像建立(9月22日) 早大野球部創設、日本野球界発展への尽力を顕彰したもの。東京・戸塚の早大グラウンドで除幕式が行われた。安部(62)は社会主義運動の先駆者で、前年末に結成された社会民衆党の委員長に就任していた。

▼有明海沿岸に大水害(9月13日) 台風の影響で未曾有の暴風雨。家屋倒壊・流失、田畑冠水などの被害が広がり、死者・行方不明は439人にも。写真は、高潮に襲われた熊本県飽託郡での遺体収容作業。

毎日新聞社

朝日新聞社

昭和2年9月

1(木)●宝塚少女歌劇、レビュー「モン・パリ」初演。
2(金)●トルコ総選挙、ケマル・パシャの国民党圧勝。
3(土)●院展・二科展・構造社彫刻展、開幕。警視庁、二科五点、構造社一点の展示撤去を命令。
4(日)●一年ぶり帰国の藤原義江、帰国独唱会開催。
5(月)●政治・宗教の集会に小学校舎使用禁止令廃止。
6(火)●中井銀行の預金者代表、同行整理に関し一六一円以上は六二%の支払いとの条件で同意。
7(水)●大豊作で米価崩落、清算米相場が新安値記録。
8(木)●東京市清掃従業員がスト、各町会がゴミ収集。
9(金)●一駅一店となり締め出される非公認運送業者六〇〇人、鉄道省へ反対示威、局長室に乱入。
10(土)●第二皇女(久宮祐子内親王)誕生。
11(日)●張作霖の排日禁止令に抗議する奉天市民と在留日本人が衝突。日本人警官、中国警察に拘禁。
12(月)●退去命令受けたシンガポールの日本人娼婦一〇〇人救済のため、矯風会の守屋東が出発。
13(火)●九州西部に台風直撃。有明海沿岸に高潮。死亡・行方不明四三九人、二二一一戸倒壊・流失。
14(水)●演習遅刻で母危篤の偽電報打った初年兵自殺。
15(木)●東京、大阪両高等工業、工業大学に昇格認可。
16(金)●野田醤油で一五〇〇人が賃上げと、身分保障求めスト突入(翌年4月解決。戦前最長)。
17(土)●ソ連国営漁場の日本の「赤化漁夫」二〇〇人が函館入港。水上署が取り調べ開始。
18(日)●徳富蘆花、兄・蘇峰と和解直後に死去。六〇歳。
19(月)●毛沢東、都市蜂起・攻撃を中止、山岳地・井岡山へ退却し、革命根拠地建設を決める。
20(火)●法務省、全国の刑務所で敷蒲団の貸与を許可。
21(水)●普通選挙法で初の県議選が鳥取県で始まる。
●三越呉服店、水谷八重子らをモデルに初の和服「ファッションショー」を開催。
22(木)●早大グラウンドで安部磯雄の胸像除幕式。
23(金)●測量船「膠州」、マーシャル諸島で座礁。
24(土)●国際連盟総会、侵略戦争禁止決議案を可決。
25(日)●東京・亀戸で揮発油満載船火災。百余メートル火の海。
26(月)●米、CBS放送設立、開局。
●東京府、表札は姓のみ不可など掲出法を公布。
27(火)●朝鮮共産党事件(6月)弁護団十余人、警察官入廷に抗議し総辞職。開廷不能になる。
●東京の井戸二〇万個を閉鎖式に改造と決定。
28(水)●海軍八丈島飛行場竣工、東京防衛のため。
29(木)●蒋介石、長崎に到着。一三年ぶり来日。
30(金)●ベーブ・ルース、六〇本塁打の新記録を達成。

証言・あの日この日
高群逸枝(33)

1月31日(月) 〈昨夜は木田開さんが全集(大衆文学全集)の用で見える。木田さんは夫の依頼で岡本綺堂さん、前田曙山さんを訪ねられたが、まとまるらしいと。夫はこの全集でこのごろ忙しい。平凡社も浮沈をかけた事業で、千ページ一円の大衆版のよし。中里介山さん、参加を拒絶と。いわく、自分の作品には大衆とか反大衆とかの区別はないと。夫は同感して勧誘をやめたという〉(高群逸枝『火の国の女の日記』)

この頃、出版界は1冊1円の、いわゆる円本ブームの真っ最中だった。女性史研究の先駆者・高群逸枝の夫、橋本憲三は平凡社の編集者だったが、平凡社も社運をかけて、円本の「現代大衆文学全集」全60巻を企画する。橋本は責任者として大活躍。全集は爆発的に売れ、ここに大衆文学というジャンルが確立する。(山崎行太郎)

◀蒋介石、渋沢栄一訪問(10月25日) 国民革命軍総司令の職を辞して、9月に来日。日華実業協会会長で日本財界のリーダー、渋沢と東京・麹町の事務所で会談。混迷する中国情勢を説明し、自身への協力を懇請した。

▼横浜港で大観艦式(10月30日) 新帝「地方巡幸」の一環として、昭和天皇が戦艦「長門」など連合艦隊170隻の10年ぶりの威容を親閲。100万人がその様子を見守った。写真は御召し艦「陸奥」の乗員による登舷礼式。

早稲田大学提供

毎日新聞社

▶大隈講堂が開館(10月20日) 早大創立者・大隈重信を顕彰、創立45年記念を兼ねて祝典を催した。1万人収容の大ホール、生前の125歳説にちなむ、高さ125尺(約38メートル)の時計台が「都の西北」に偉観をそえた。

朝日新聞社

◀法隆寺の防火設備完成(10月6日) 多数の国宝を持つため、明治45年以来、90ヵ所に強力な消火栓の設置工事が行われてきた。翌年4月に完成式を挙行。写真は、下村宗教局長らが出席して行われた、五重塔への放水実験。

▶「乱闘議会」の政友会代議士が出廷(10月12日) 3月に衆院で清瀬一郎に暴行を働いた容疑者たちで、東京地裁で、10人とも知らぬ存ぜぬの一点張り。しかし、判決は全員有罪だった。

朝日新聞社

昭和2年10月

1(土)●火災専用電話、一一二番から一一九番に変更。
●警視庁、不良牛乳問題で業者に低温殺菌命令。
2(日)●大阪で巡回病院船「慈愛丸」竣工(14日開院)。
3(月)●米モルガン財団代表が来日(満鉄借款見送り)。
4(火)●広島中学を首席で卒業した少年、体格検査で高等学校不合格となり自殺。
●博士急増、一八〇〇人に。学位決定が文部省から各大学教授会に移管したため、と新聞に。
5(水)●東京市、小学校建設促進で翌年中完成を決定。
6(木)●初めてサウンド・トラックを使用した長編トーキー映画「ジャズ・シンガー」、米で封切。
7(金)●銚子水産会、魚群探査に飛行機を購入。
8(土)●廃娼連盟、男子貞操義務判決記念の演説会。
9(日)●米から種鶏八四〇羽輸入、全国五ヵ所に国立養鶏場新設など農林省の計画進む、と新聞に。
10(月)●大日本連合女子青年団、結団式を挙行。
11(火)●代々木練兵場は不衛生と渋谷町民が撤廃決議。
12(水)●パリで薩摩治郎八寄贈の日本学生会館定礎式。
13(木)●閣議、歳入減で震災復旧費の大幅削減を決定。
14(金)●西本願寺管長に中学生の大谷光照が決定。
●府県議会選終了。政友七一四、民政五七六。
15(土)●林不忘「新版大岡政談」、「大阪毎日」に連載開始。丹下左膳が登場。剣劇ブームに拍車。
●松坂屋、食堂の女子店員の制服を洋装に変更。
16(日)●帝展開幕、工芸部新設。院賞に鏑木清方ら。
17(月)●湯浦―水俣間開通し鹿児島本線が水俣経由に。
18(火)●草間貫一、アマ初の短波放送実験に成功。
19(水)●東京市教育局の人事汚職で、視学四人召喚。
20(木)●早稲田大学大講堂(大隈記念講堂)、開館式。
21(金)●上映中のソ連映画「ヴォルガの舟唄」上映禁止。
22(土)●東京府中学英語教員会、英語科廃止に反対。
23(日)●飛行船「N3号」、悪天候で伊豆・神津島に不時着後、爆発(飛行船の実用性議論へ)。
24(月)●東京の神戸家の競売で田能村竹田、渡辺崋山ら一四八点、総計百万五千余円で落札。
25(火)●東京の玉突き場が一三〇〇軒に急増し競争激化、風紀上問題と警視庁が取締り強化。
26(水)●東京市電採用の少年車掌五〇人が教習所入所。
27(木)●新潟でM五・二の地震、宮本村で石油噴出。
28(金)●難病治癒の誇大広告で検挙された心霊術の武田太郎、公判廷で心霊術の実験を披露。
29(土)●休業銀行の整理を目的とする昭和銀行創立。
30(日)●横浜で一〇年ぶり大観艦式。一〇〇万人見物。
31(月)●東鉄、横暴非難される円タク業者に営業停止。

▲中条百合子(28)、ソ連留学(11月30日)ロシア文学の湯浅芳子(30)と二人で留学のため、シベリヤ経由でモスクワへ出発した。昭和5年に帰国後、プロレタリア作家同盟に参加、7年には宮本顕治と結婚した。写真は東京駅で、右が湯浅。

朝日新聞社

毎日新聞社

▲「天皇直訴事件」軍法会議(11月26日)19日の特別大演習観兵式で、軍隊内の部落差別を訴えて世間を驚かせた北原泰作二等卒(21)が出廷。判決は懲役1年、上告したが棄却され、服役した。

▼川島芳子、結婚(11月26日)新郎は蒙古軍将軍の次男。張作霖爆殺事件を謀った関東軍の河本大作らが列席。後の「東洋のマタ・ハリ」は21歳だった。

▼初の日本人司教、フランスで大歓迎(11月27日)ローマ法皇から司教位を受けた、函館の司祭・早坂久之助(写真)が、パリ滞在中、ノートルダム大聖堂で盛大な祝典。大聖堂には日仏国旗が並んだ。

朝日新聞社

▶樺太航路に砕氷客船「亜庭丸」就航(11月27日)北海道の稚内と樺太の大泊を連絡。最新の音響測深機を装備、3355トン。この航路は大正12年開設以来、北方開発が進むとともに、乗客や貨物が飛躍的に増加。冬、海が結氷するため優秀な砕氷船が求められていた。

▶慶大ラグビー、国内初の敗北(11月23日)創部以来29年間、負け知らずの強豪が、早大戦でついに8対6の惜敗。早大はこれまで5連敗、1引き分けの戦績だったが、豪州遠征で力をつけていた。

朝日新聞社

昭和2年11月

- 1(火) ●初の月刊保育絵本「キンダーブック」創刊。 ●「キング」一一月号、一四〇万部発行。発行部数が一〇〇万部超えた初の月刊誌。
- 2(水) ●上海で韓国独立党促成会を開催。
- 3(木) ●初の明治節。明治神宮に八〇万人が参拝。
- 4(金) ●東京で対米親善で贈られる日本人形の送別会。
- 5(土) ●蒋介石、田中首相と会談し張作霖援助に抗議。
- 6(日) ●争議中の東京実用自動車会社運転手ら三百余人、五〇台の自動車で千葉県の山林に籠城。
- 7(月) ●ロシア革命十周年。各地演説会で検束者続出。
- 8(火) ●労農党襲撃で赤尾敏建国会理事長ら八人検束。
- 9(水) ●陸軍、夜間防空の聴音機・移動探照灯を試験。
- 10(木) ●米GM社、空前の高配当(この年フォードを抜き自動車生産世界一位に)。 ●岐阜県鶉村で小作人六〇〇〇人が争議に突入(24日岐阜県山添村で村長宅放火し暴動化)。
- 11(金) ●大阪で東洋医学研究会設立。
- 12(土) ●三菱美唄炭坑でガス爆発。六八人死亡。 ●近衛文麿ら公侯爵全議員、貴族院研究会脱退。
- 13(日) ●市村京都市長、職制整理への批判強く辞任。
- 14(月) ●内務省、「官学尊重打破」のため、私立大卒業生採用を決定し各大学に照会状送付。
- 15(火) ●岸田劉生らの大調和会、第一回展を開催。
- 16(水) ●百貨店は贅沢品が減少、生糸暴落で銘仙に茶生地の「モダン」柄和服が全盛、と新聞に。
- 17(木) ●中国共産党、広東省に初のソビエト政府樹立。
- 18(金) ●パリ在住の藤田嗣治の銅版画がルーブル美術館に永久収蔵と決定、と新聞に。
- 19(土) ●水平社の北原泰作二等卒、名古屋での陸軍観兵式で軍隊内差別撤廃を天皇に直訴。
- 20(日) ●鹿児島で中国人留学生らが亡命者を糾弾。
- 21(月) ●京城高校盟休で退学者の復校訴えた九人送検。
- 22(火) ●イラン、バーレーン諸島の主権を主張。英・サウジアラビアと石油利権めぐる争い激化。
- 23(水) ●慶大ラグビー部、早大に国内戦で初の敗退。
- 24(木) ●近江銀行の預金者代表、休業による自殺者一二人、行方不明六五〇人など窮状を訴える。
- 25(金) ●理研、理化学興業設立。コンツェルン形成へ
- 26(土) ●川島芳子、旅順で蒙古軍将軍の次男と結婚
- 27(日) ●砕氷客船「亜庭丸」竣工。稚内―大泊航路就航。
- 28(月) ●第一回国民合唱音楽祭、開催。
- 29(火) ●松方公爵、十五銀行整理に全私財提供と表明(12月13日爵位返上願を提出。19日許可)。
- 30(水) ●東京の陪審員候補者二四四八人が決定。

吉本興業提供

▼東京の市電に少年車掌(12月6日)女性車掌を1月に全廃、代わって少年車掌50人を採用した。人件費削減が目的。写真は乗務の前日、青山教習所の出所式を終えた、制服姿の少年車掌。

▲漫才、大成功(12月)吉本興業と松竹が提携、大阪・道頓堀の弁天座で初の全国漫才座長大会を開催。ファンが押すな押すな。吉本専属の漫才師は翌年48組、人気はうなぎ上りだった。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲踏切に自動警報機登場(12月1日)鉄道省が、交通頻繁な東京近郊や地方15ヵ所に設置。列車が踏切の手前800メートルに達すると、警笛を鳴らし赤色灯を点滅させた。写真は京都・千本七条の踏切。

横堀洋一提供

▶蒋介石、宋美齢と結婚(12月1日)東洋一と言われる上海のマゼスチックホテルで、盛大に挙式。新婦は中国革命の父と言われる孫文の未亡人・宋慶齢の妹。蒋(40)は政治的財政的基盤を強化させた。

毎日新聞社

▲ラジオ局、女子アナ採用(12月)聴取契約数が約26万という人気を背景に、大阪放送局が人材募集。殺到する応募者を声の1次試験、さらに筆記試験を実施(写真)、一人が採用された。

▶諒闇明け(12月26日)大正天皇の崩御一周年となり、服喪期間が終了。宮中では禊ぎの儀、国民は歳末に向かってにわかに活気づいた。写真は、大阪の第4師団歩兵連隊。遥拝式をあげ、連隊旗につけた喪章を取りのぞいた。

朝日新聞社

昭和2年12月

- 1(木) ●「主婦之友」一二月号、荻野式避妊法を紹介。 ●蒋介石と孫文夫人の妹・宋美齢、結婚。
- 2(金) ●ソ連共産党大会開催、第一次五ヵ年計画、農業集団化、トロツキー除名を決議(~19日)。
- 3(土) ●北海道音更村二〇〇戸の電灯線に強い電流が流れ二人即死、一〇人重傷。
- 4(日) ●ジャズのデューク・エリントン、白人専用クラブ「コットン・クラブ」と出演契約。
- 5(月) ●蚕糸中央会、生糸生産一ヵ月全休の操短決定。
- 6(火) ●山川均・堺利彦ら、「労農」創刊(労農派)。 ●初の全国輸出工業組合大会。中央会設置決定。 ●クーリッジ米大統領、艦艇大建造案を発表。
- 7(水) ●小山内薫・秋田雨雀ら文化人一行、訪ソ。
- 8(木) ●村井銀行など休業各行、小口払い戻し開始。
- 9(金) ●日本婦人海外協会設立。会長・松平俊子。
- 10(土) ●大阪市に渡辺橋・肥後橋が完成し渡橋式挙行。 ●斎藤実朝鮮総督の後任に山梨半造を任命。
- 11(日) ●国内初の京都中央卸売市場開業。
- 12(月) ●大阪の農民劇団百姓座の一揆劇が上演禁止。 ●東京市立大久保病院が、開院式。中産階級向け。
- 13(火) ●初の旅客専門輸送機、大阪に向け東京出発。
- 14(水) ●英、イラクの軍事権を掌握し、独立を承認。
- 15(木) ●国民政府、広州ソビエト壊滅させ対ソ断交。 ●東京―下関間で鮮魚用の貨物特急が初運行。
- 16(金) ●政友会代議士の議会暴行事件で九人に有罪。 ●富山で電灯料値下げ期成同盟を結成。
- 17(土) ●大阪地裁、堕胎罪の医師ら一八人に懲役刑。
- 18(日) ●横浜にフォード工場建設のため同社技師が来日(子安に本格組み立て工場を完成)。
- 19(月) ●二村定一らジャズ・ソング「私の青空」を放送。
- 20(火) ●小作調査会特別委員会、自作農創設案を可決。
- 21(水) ●放送協会、大礼の全国放送用中継線を設置。
- 22(木) ●東京府議会、警視庁機密費七一万増額を可決。 ●郵政省、月掛け郵便貯金制度を創設。
- 23(金) ●警視庁、安眠妨害と火の用心の触れ太鼓禁止。
- 24(土) ●東京電灯と東京電力、合併契約に仮調印。
- 25(日) ●大正天皇一年祭、挙行(翌日から諒闇明け)。
- 26(月) ●大阪の全ダンスホール、風紀乱すと営業禁止。
- 27(火) ●ワシントンで日本からの人形使節の贈呈式。
- 28(水) ●林兼商店、米国に冷凍魚類を初輸出。
- 29(木) ●銀行の合同、破産で一月来一三七行減少。三井など五大銀行の預金高が三割超えると大蔵省
- 30(金) ●東京の浅草―上野間に日本初の地下鉄開業。
- 31(土) ●上野・寛永寺から初めて除夜の鐘の放送。

俄楽多市

流行語
女性の魅力、それは……

「イット」。この年公開された米映画「イット」（主演、クララ・ボウ）から出た言葉で、女性のエロチックな魅力のこと。折からのエロ・グロ・ナンセンス旋風の中で大流行し、「イット満喫」「彼女はイットがある」などと使われた。

「おらが大将」。昭和二年四月、元陸軍大将で政友会の田中義一が首相に就任した。田中は山口県出身で、自分のことを「おらが……」と言うのが口癖だったところから「おらが大将」と呼ばれ、その口マネが流行した。

「座談会」。「文藝春秋」三月号に徳富蘇峰、山本有三、芥川龍之介、菊池寛による座談会が掲載された。これが座談会の初めで、企画したのは菊池寛、座談会という言葉も彼の造語。以後、雑誌で座談会が大はやり、言葉も流行した。

「世界風邪」。昭和元年から二年にかけて大流行した流行性感冒で、昭和二年一月、東京では総人口の一割近くがかかった。大正七年のスペイン風邪による大量の死者の記憶もあり、「世界風邪にかかってね」という言葉が「死ぬかもしれない」という漠然たる不安をこめて使われた。

▲マイカー族のはしり。車で海水浴場に乗りつけた一家が、水着に着換えているシーン。　毎日新聞社

CM100年

ポスター　「東洋唯一の地下鉄道」（東京地下鉄道、現・営団地下鉄）

▲この年12月30日、日本初の地下鉄が開通（上野—浅草間）。杉浦非水画。

食
新宿に名物誕生！中村屋の高級カレー

この年、新宿の中村屋で高級なカレーライスがメニュー入りした。それまでのものは皿に飯を盛り、その上にカレーソースをかけてあるのだが、中村屋のはカレーソースが別の容れものに入っていた（その後、高級カレーライスはみんなそうなった）。また肉は牛肉でなく骨つきの若鶏。米は特に吟味されていて、ソースがしみこみやすいように炊かれていた。薬味にピクルスを刻んだものを用いたのも中村屋が初めてである。もっとも値段は八〇銭と、大衆食堂のカレーの七、八倍だった。

（加藤秀俊『食生活世相史』）

子ども
将来は〝偉人〟に！女生徒の希望職業

東京市の社会局が市内の小学校の女生徒一万二一八一人（四〜六年生）について、将来の職業希望調査を行った。結果は次のとおり。

1偉人＝七九四五、2先生＝一九一九、3商人＝四四九、4裁縫師＝二八二、5人妻＝一八一、6学者＝一五〇、7芸術家＝一〇九、8女医＝一〇〇、9看護婦＝九八、10髪結い＝九四、11女学生＝九二、12職業婦人＝七八、13奉公人＝七二、14政治家＝二九、15運動選手＝二九

（「中央新聞」六月二三日）

▲「漫画雑誌」七月号に掲載された、大槻保画「全集屑屋」。円本の大ブームで、読み捨てられた本が山積み。おかげで屑屋はてんてこ舞。　日本漫画資料館提供

葬式
昼間の火葬が許可され即日の拾骨も可能に

薪で火葬を行っていた時代には、死んだ人の骨を拾う拾骨は翌日に行うのが一般的であった。火葬時間が著しくかかるうえ、幕府や警察などの監督官庁が昼間の火葬を禁止したからである。わが国で昼間の火葬が正式に許可されたのは昭和二年六月、東京・町屋火葬場に重油炉二基が設置されてからである。これによって火葬時間も大幅に短縮され、即日拾骨も可能になった。

（浅香勝輔、八木沢壮一『火葬場』）

三面記事
無声映画の効果音裏話

無声映画は弁士がストーリーや台詞を説明するが、音響効果はどうなっていたか？　昭和二年、横浜オデオン座でアメリカの戦争映画の大作「ビッグ・パレード」が封切られた。ニューヨークで九六週連続上映という記録を作った超ヒット作である。その時のことを当時の映写技師・秋山養方さんはこう語る。

「飛行機の爆音は、扇風機の羽根をはずしてモーターをまわす。銃声や砲声は火薬を紙で包んだ煙硝を、鉄板の上に並べて金づちでたたいて破裂させパンパン！　そうかと思えば豚を飼っている農家のそばを部隊が進軍する場面では、竹を使ってブーブー」

これを舞台の袖などでやるわけで、もちろん〝本物〟にもない音。オデオン座にはそういうアイディアを考えるのが大好きな男がいて、その趣向が同座の人気を呼んでいたという。

（丸岡澄夫『よこはま映画外史・オデオン座物語』）

▲大正天皇の大喪時に用いられたシルクハットは、従来よりも山部が低く、バンドも黒ラシャ使用。　豊島区立郷土資料館蔵

科学
蛇に記憶はあるか？デンバー大学の実験

〔デンバー発〕当地のデンバー大学で、蛇（陸棲蛇）の記憶力に関する実験が行われた。T型ガラス管に蛇を入れ、突きあたって左の方に進めば電気でおどす。それからどれくらいの時間で右側に達するかをはかろうというもの。最初から右側へ行った場合はノーカウントとし、蛇が常に移動するよう電灯が点滅される。

その結果、一匹の蛇は最初、T型の左端から右端に達するのに二四三四秒要したが、一七日後には七六三秒、三二日目には二〇〇〜三〇〇秒に短縮された。これによって蛇にも記憶力があり、電気ショックを受けたら右に行くことをおぼえていることがわかった。

（「東京朝日新聞」一月九日）

▲元横綱大錦は、一月一五日、早稲田大学に入学願書を提出。三年間政治・経済を学ぶ。

社会
囚人馬車は御用済み刑務所に護送車登場

〔松江発〕松江刑務所の囚人馬車が、一〇月一日から自動車に切り換えられた。囚人馬車が設けられたのは明治三六年三月、内部は幅四尺（約一・二メートル）、長さ一間（約一・八メートル）で、これがさらに四つに区切られ、一人ずつ閉じこめられた。外側もよろい戸だから陽の目も拝めず、まるで猛獣を運ぶオリ。これも「社会から隔離する」という刑務所の意向にそったものという。今回自動車で運ぶについては、「良民さえめったに乗れない自動車に罪人を乗せるとは」と反発する向きもある。

（「松陽新報」一〇月九日）

この年の初もの
「観察絵本」と称された「キンダーブック」創刊

●**ニュース映画**　四月、米・パラマウント社のニュース映画を、東京・丸ノ内などで公開。

●**鉄の肺**　七月、ニューヨークのベルビュー病院に人工呼吸装置が備えられ〝鉄の肺〟と呼ばれる。

●**車内広告**　九月、東京の中央、山手、京浜の三線に登場。中吊りで一カ月六四〇円。

●**バスガイドつき観光バス**　別府・亀ノ井ホテルが市内の名所めぐりを始める。

はやり歌

ちゃっきり節
作詞　北原白秋
作曲　町田嘉章

唄はちゃっきり節　男は次郎長
花はたちばな　夏はたちばな　茶のかおり
*ちゃっきり　ちゃっきり　ちゃっきりよ
きゃあるが鳴くんで　雨ずらよ

茶山　茶どころ　茶は緑どころ
ねえね行かずか　やあれ行かずか　お茶つみに
*くりかえし

さあさ行こ行こ　茶山の原に
日本平の　山の平の　お茶つみに
お山見れ見れ　あの笠雲を
ねえね着て出や　今朝は着て出や　菅の笠

▲ローカル線の静岡電鉄（現・静岡鉄道）が、新しい遊園施設のイメージソングの歌詞を、北原白秋に依頼。写真は、白秋自筆の原稿。　静岡鉄道提供

モン・パリ
訳詞　岸田辰弥
作詞　リュシアン・ボワイエ
作曲　V・スコット／J・ボワイエ

ひととせあまりの　永き旅路にも
つつがなく帰る
この身ぞ　いと嬉しき
めずらしき　とつくにの
うるわしき思い出や
わけても忘られぬは
パリの都
うるわしの　思い出

モン・パリ　わがパリ

たそがれどきの
そぞろ歩きや
行きこう人も　いと楽しげに
恋のささやき
あの日の頃の　われを思えば
心はおどるよ
うるわしの　思い出
モン・パリ　わがパリ

◀九月公演の宝塚歌劇団レビュー「モン・パリ」の主題歌がヒット、レコードの売り上げは一〇万枚を超えた。

▶金沢では、一月に三メートルを超す積雪を記録。写真は、二階の窓から遊廓に出入りする客。　能登印刷出版部提供

リンドバーグ、大西洋横断無着陸飛行！

アメリカンドリームを実現した三三時間三〇分の単独行

凱旋パレードで一八〇〇トンの紙吹雪が舞った！

一九二七年、リンドバーグは、人類初のパリ―ニューヨーク間の大西洋横断無着陸飛行に成功。単独飛行で睡魔と戦いながら偉業をなしとげた彼に、人々は熱狂した。その頭上に降り注がれた紙吹雪の量は、いまだに破られない記録となっている。一介の航空郵便パイロットは、一夜にしてヒーローとなったのである。

◀ドナルド・ホール設計の高翼単葉機、「スピリット・オブ・セントルイス号」とリンドバーグ(右から3人目)。
ARCHIVE PHOTOS

誰にも注目されなかったヒーローの独創的な発想

「翼よ、あれがパリの灯だ！」などと言っている余裕は、彼にはなかった。約三三時間三〇分の大西洋横断飛行のすえ、パリ上空にたどり着いた彼は、古都の夜景を楽しむどころか、飛行場の灯すら発見できなかったのだから。

何度か低空飛行を繰り返し、ようやくパリ郊外のル・ブールジェ空港を発見して着陸したのは、一九二七年五月二一日午後一〇時二四分。その時の彼の第一声は、こうだった。

「誰か英語を話せる人はいませんか？」

彼の名はチャールズ・リンドバーグ（二五）。ニューヨーク―パリ間の無着陸飛行に初めて成功した男だった。

一九〇二年、ミシガン州デトロイト生まれのリンドバーグは、ただの飛行機好きな田舎の青年だった。陸軍飛行学校とケリー飛行学校を卒業した彼は、二六年に、当時開始されたばかりの郵便飛行業務につく。大空を飛びながら彼は考えた。

「燃料さえ充分なら、一晩中飛べるはずだ。ニューヨーク―パリ間の無着陸飛行だって不可能じゃない！」

一九二〇年代は、飛行機の能力が飛躍的に向上し、「冒険飛行」が本格的に始まった時代だった。二六年にはリチャード・バード米国海軍中佐らが無着陸北極点往復飛行に成功し、時の英雄となっていた。それに目をつけたニューヨークのホテルの所有者、レイモンド・オーティグは、全世界の「ヒコーキ野郎」たちに「ニューヨーク―パリ間無着陸飛行の最初の成功者に、二万五〇〇〇ドルの賞金を贈る」と呼びかけた。現在の日本円なら二億円にも相当する大金だった。

距離も規模も賞金も空前絶後のレースに、リンドバーグも参加を表明した。だが一介の航空郵便パイロットには、誰も一顧だにしなかった。有名なパイロットが続々、エントリーしていたからだ。その中には、英雄・バード中佐（三八）の名もあった。彼らは豊富な資金力を背景に、エンジンを数基積んだ大型機で、優秀な副操縦士とともに挑もうとした。なにしろ飛行距離は五八〇九キロ。常識的には、二人以上のパイロットと、二基以上のエンジンが不可欠、と思われていた。

しかしリンドバーグの考えは違った。

「何よりも大量のガソリンを積むこと。資材は必要最小限にとどめ、エンジンは一基、副操縦士も乗せず単独飛行する」

ライバルたちが祝杯用のシャンパンやベッドまで積みこむのを横目で見ながら、彼は無線機もパラシュートも捨て、一二四七キロの燃料を積んだ。食料もサンドイッチ五個と、一リットルの水だけ。その少なさを指摘した記者に、リンドバーグはこう答えた。「パリに着いたらもう食料はいらないし、着かなかったら――やっぱり必要ないからね」。彼の愛機「スピリット・オブ・セントルイス号」を、マスコミは「燃える棺桶」と皮肉った。

五月二〇日七時五二分、リンドバーグは、パリに向け、ニューヨークのルーズヴェルト飛行場を離陸した。ライバルたちが試験飛行の段階で失敗、ただ一人の出発だった。襲い来る睡魔と戦いながら、リンドバーグは飛び続けた。彼は凍える冷気の中で、あえて窓を開けたまま飛んだ。冷気で眠気をおさえようとしたのだ。しかしそれ以外の問題はなく、心配されたエンジンも快調にまわり続けた。

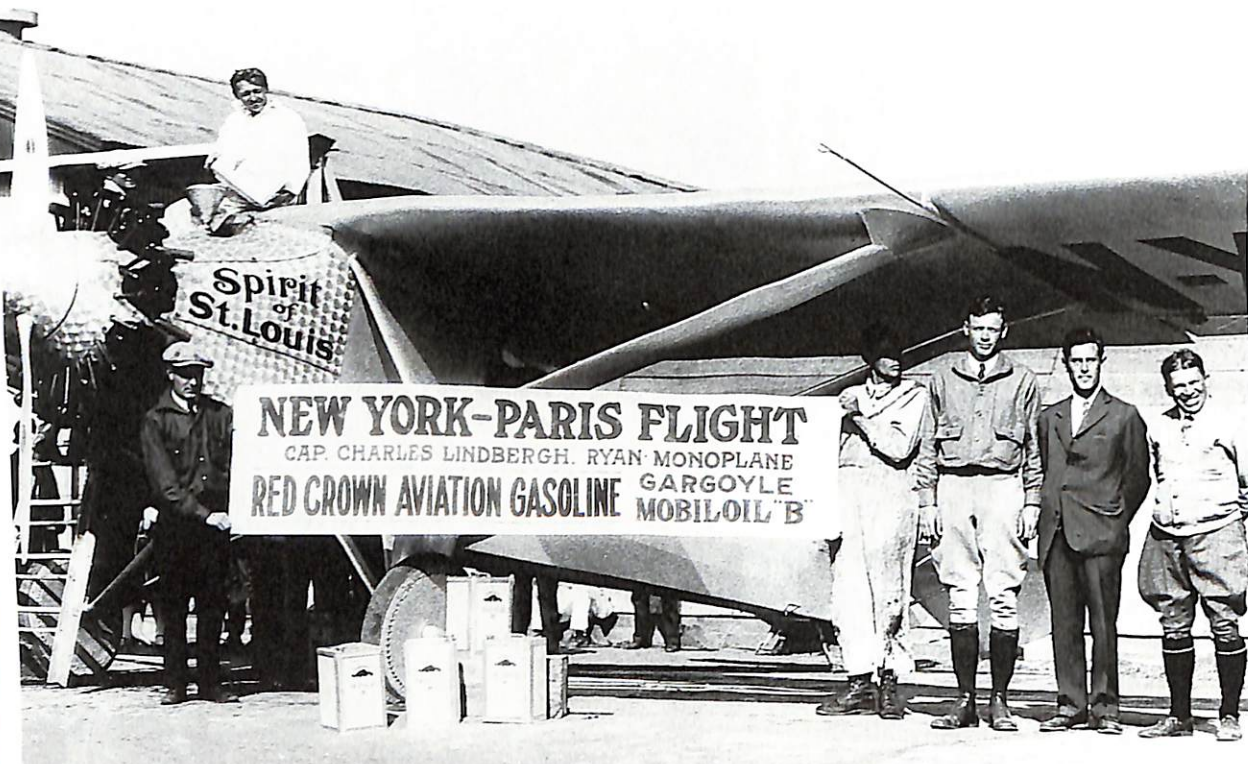
一介の市民の偉業が熱狂的に迎えられた

リンドバーグがパリに到着した時、午後の一〇時という時間にもかかわらず、一〇万人もの大群衆が空港に詰めかけていた。群衆は、彼をコックピットから引きずり出すと御輿のように担ぎ上げ、手荒い祝福をあびせ続けたのである。

ニューヨークの盛り上がりは、それ以上だった。クーリッジ大統領が差し向けた海軍巡洋艦で帰国した彼の頭上には、

▶エッフェル塔を背景に、パリ市上空をデモンストレーションフライトするリンドバーグ機。

▶沸き上がる歓呼の声と空を覆う紙吹雪に包まれて、ブロードウェーを通過するリンドバーグの凱旋パレード。

外から見たNIPPON

論客・戴季陶が「尚武」の気風が「すたれつつある」と批判した時代

—佐伯 修

「私がむかし滞在していた頃の日本は、まだ今日ほど人口が稠密でなく、資本主義も未成熟であった。そのため金銭による階級区分も、今日ほど判然としていず、生活も今日ほど苦しくはなかった。当時の日本社会は、生活になお古き日の良き風習を多分に留めていた。（中略）ところが大地震（一九二三年、関東大震災）の後には、俄然、生活の動揺にともなって、民衆の生活に一大変化が生じた。ひと口にいうとこの変化は、『安定から不安定へ、平和から不平和へ』である。そして不思議なことに、社会人心が日ましに『不平和』の方向へ悪化していくにつれて、尚武の精神も次第に消え失せていった。信仰心も以前より減少し、その反面、迷信が幅をきかせはじめた。また迷信の流行と正比例して、反宗教の運動と、無政府の傾向が起こった。せっかく一千数百年かかって中国文明とインド文明とを消化し、これを日本人の血液に調和させ、独特の趣味を作りあげたにもかかわらず、その日本趣味が、日一日と破壊され、減少している」（市川宏訳）

中国国民党右派の論客、戴季陶（一八九〇～一九四九）は、この年二月から三月にかけて日本を訪問、神戸、東京、大阪など各地で講演し、中国への武力介入の中止と、侵略政策の放棄、中日連帯などを説いた。帰国後、戴が執筆した『日本論』は、翌一九二八年に出版されたが、その末尾近くで、彼は、自分が日本に留学、日大で法律を学んだ一九〇五～〇八年当時と比較した最近の日本社会の変化について、右のような指摘を行なっている。

当時の日本は、陸軍出身の田中義一政権下で、中国国民党の進める「北伐」に対する武力干渉（第一・二次山東出兵と済南事件）を行うなど、武力を背景とした対中強硬姿勢をエスカレートさせていた矢先である。「満蒙」への積極進出論も高まる中で、勇壮な「軍国調」礼賛の傾向は、民間でも強まりつつあった。それなのに、日本古来の「尚武」の気風はむしろすたれつつあるという戴の見解は、一見奇妙かもしれない。だが、彼は、「軍国主義」を「平和的な、美を愛する精神、美を鑑賞する習慣」を破壊する「受動的闘争」と位置づけ、「武士道」に基づく「能動的尚武」とは厳密に区別し、むしろその反対物ととらえていたのだ。

四川省出身の戴は、孫文の秘書として、孫と日本の要人の会見のほとんどで通訳をつとめた。『日本論』には、日本の被差別部落解放運動への共感的言及も見られる。

▲「天仇」の名でジャーナリストとしても活躍した戴季陶。

一八〇〇トンもの紙吹雪が舞った。第一次大戦の凱旋パレードが一五五トンというから、それを一〇倍以上も上回るすさまじい熱狂ぶりだった。議会は航空勲功十字章という勲章をわざわざ新設し、リンドバーグを第一号受章者とした。新聞は「人類史上、最大の英雄」と報じた。どこにでもいる航空郵便パイロットが、一夜にしてアメリカ史上最大のヒーローと化した。まさにアメリカンドリームの実現だった。

「自分たちと同じ一介の市民の偉業だからこそ、人々は熱狂的に迎えたのです」

と語るのは、上智大学の松尾弌之教授。典型的な中西部育ちのリンドバーグは、まさにうってつけだった。また、この偉業が「個人」によってなされたことも、熱狂を誘った理由であった。たとえば、一九六〇年代にアメリカ人初の宇宙飛行士となったジョン・グレンもヒーローだが、彼にはNASA（アメリカ航空宇宙局）という国家的バックアップがあった。だから、リンドバーグ人気には遠くおよばなかった。事実、グレンに舞った紙吹雪も一〇〇〇トンにとどまっている。一八〇〇トンの紙吹雪という記録は、いまだに破られていない。

さらに、当時の時代状況もこの熱狂的ブームに輪をかけた、と松尾教授は言う。

「当時は車やタイプライターなどの機械が浸透し始め、日常生活は大きく変化していました。車は郊外型の生活様式を生み、タイプは文体すら変化させた。人々は、いずれは機械に支配されるのでは、という危機感を抱き始めました。そんな時、機械の塊である飛行機をコントロールした彼は、人々に〝機械は人間が支配するもの〟と印象づけ、安心させた。そこから、機械を駆使すればいかなる目的も達成できるという思想が生まれました」

その後、リンドバーグは親ナチス的な姿勢を非難され、米国本土から離れてハワイで晩年をすごした。

しかし、彼の偉業は後の航空産業の発展に大きく貢献し、「偉大な英雄」として、人々の心の中に生き続けている。

チャールズ・リンドバーグ（1902～1974）
アメリカの飛行家。大西洋横断無着陸飛行に成功後、一躍世界の英雄に。一九五四年、回想録『翼よあれがパリの灯だ』により、ピュリッツァー賞受賞。

Smithonian Institution　ユニフォト・プレス

▲パリ時間午後10時24分に到着したリンドバーグは、押し寄せた群衆に飛行帽を剥ぎ取られてしまった。

往きて還らぬ

▲1月28日　石橋思案(59)
明治期の小説家。明治22年「乙女心」「京鹿子」を発表し、名声を確立。26年以降新聞記者、雑誌編集者として活躍。

毎日新聞社

▲4月6日　志賀重昂(63)
明治～大正期の政治家で、地理学者。日本主義者としても知られ、著書『日本風景論』(明治27年)はベストセラーに。

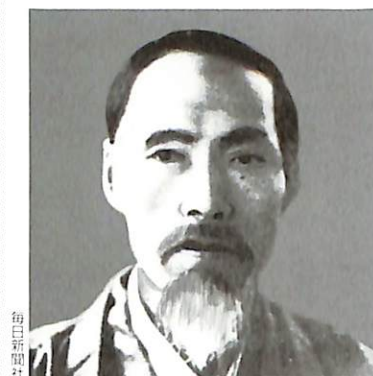
▲5月1日　萬鉄五郎(41)
画家。キュビズム風の作品で知られる。大正元年フュウザン会を結成、6年二科展で「もたれて立つ人」が話題に。

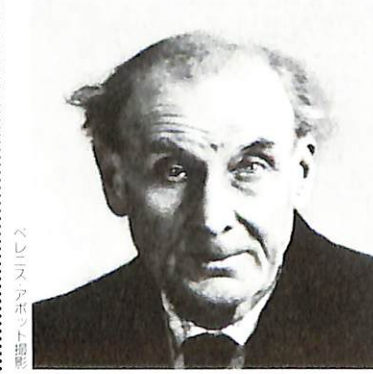
毎日新聞社

▲5月2日　福田英子(61)
明治期の自由民権・婦人運動家。明治18年大阪事件に連座して入獄。40年「世界婦人」創刊。自伝は『妾の半生涯』。

オリオン・プレス

▲6月14日　J・K・ジェローム(68)
英のユーモア作家で、1889年『ボートの三人男』で有名に。雑誌「アイドラー」を編集、自伝に『我が生涯と時代』。

毎日新聞社

▲7月30日　村井弦斎(63)
明治から大正期の作家。「郵便報知新聞」入社、明治29年「日の出島」で人気を得、『食道楽』は大ベストセラーとなる。

ベレニス・アボット撮影

▲8月4日　ウジェーヌ・アジェ(71)
仏の写真家。1890年代に資料としての写真を撮り始め、パリの風景写真は、シュールレアリストに評価された。

毎日新聞社

▲8月11日　古泉千樫(40)
歌人。明治41年の「アララギ」創刊以来主要同人に。晩年は「日光」に参加。歌集に『川のほとり』など。

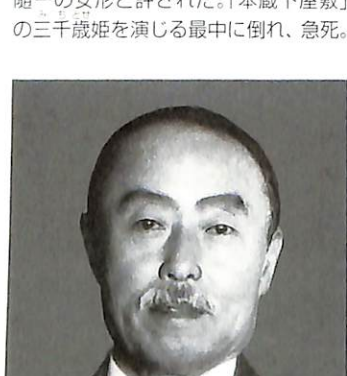
▲9月14日　イサドラ・ダンカン(49)
米の舞踊家。フリー・ダンスの創始者。1900年パリで注目され、欧州・ロシアで活躍。自由奔放な私生活でも話題に。

▲9月18日　徳冨蘆花(58)
明治～大正期の小説家。評論家・徳富蘇峰の弟。明治33年『不如帰』で人気作家に。『思出の記』は青少年を魅了した。

▲10月26日　八木重吉(29)
詩人。大正14年処女詩集『秋の瞳』刊。クリスチャンで、神と愛を主題にした詩が多い。ほかに『貧しき信徒』など。

毎日新聞社

▲11月15日　3代目中村雀右衛門(52)
歌舞伎俳優。大正6年3代目襲名、当代随一の女形と評された。「本蔵下屋敷」の三千歳姫を演じる最中に倒れ、急死。

毎日新聞社

▲12月24日　澤柳政太郎(62)
明治から大正期の教育家。明治44年東北大、大正2年京大総長。6年成城小学校創設、初等教育の改革につとめた。

ミニ事典

1927年のキーワード

健康保険

疾病・負傷・死亡などの際の、医療と所得補償を目的とする社会保険。健康保険法に基づき、一月一日から保険給付が開始された。被保険者の範囲は狭く、労働者総数四七〇万人中、一七五万人だった。また、業務上の労災は全額事業主負担だったものが、保険料は事業主と折半となり、給付が本人に限定された。そのため、保険料の値下げと、適用拡大を求める強力な反対運動が起きた。

兵役法

明治五年に定められた徴兵令を全面改正、戦時動員兵力の増加をねらった法律。四月一日公布。第一次大戦後の軍縮・近代化のため、現役期間は徴兵令より一年短縮、陸軍二年・海軍三年とした。さらに兵役対象を満一七〜四〇歳までに定め、除隊後は予備役・後備役に編入。また満二〇歳未満のもの・徴兵検査不合格者なども、戦時の予備兵力として確保する総力戦体制を築きあげた。

花柳病

性交またはその類似行為によって男女間に伝染する病気、性病のこと。花柳すなわち遊廓を通じて蔓延したため、この名がある。四月五日、政府は花柳病予防法を公布、梅毒、淋病、軟性下疳を花柳病と指定し、診療機関設置などその防止・治療に乗り出した。しかし、その対象が接客業者のみに限定されたため、実効は薄く、国民病とまで言われた。

軟弱外交

外相・幣原喜重郎の外交姿勢を非難した言葉。特に、この年三月、国民政府の北伐軍が南京の日本領事館を襲った事件に対し、四月六日、軍事介入を避け、その解決を外交交渉にゆだねるとしたことに非難が集中した。幣原は加藤高明、若槻礼次郎、浜口雄幸の各内閣で外相をつとめ、武力を背景とする「積極外交」とは異なり、米・英協調を基本にした、対中国不干渉政策を取り続けた。

姦通罪の是非論

刑法の姦通罪が、妻にのみ適用されていることの是非を問う議論。家庭を捨て未亡人と暮らす夫を、姦通罪で告訴すると脅し、手切金・養育費を出させた妻に対し、大審院長・横田秀雄が五月一七日の判決で、夫にも貞操義務あり、と妻の言い分を認めたことがきっかけ。賛否両論の中、婦人団体がこの判決に快哉を叫んだが、京都帝大教授・滝川幸辰は、法の罰則で個人の自由を規制する男女同罰論では、真の解決にならないと姦通罪自体の廃止を主張した。

▲滝川幸辰京都帝大教授、36歳。後に大学を追われる。

◀横田秀雄大審院長。65歳。

資源局

人的・物的資源の統制・運用を統括する部局。後の国家総動員体制の萌芽となった。五月二七日、官制公布。その初代長官に宇佐見勝夫が就任。その立案には書記官で入局した松井春生が深く関与、師・小野塚喜平次東京帝大教授の「資源とは人的、物的、精神的なものを総称したものである」という主張を実現した。昭和六年、戦時物資動員計画を策定、一二年、企画院設置にともない統合された。

女子工員の外出自由

工場が女子工員の寄宿舎からの自由な外出を認めること。この頃、製糸・紡績工場で働く女子工員の外出は許可制だったが、実際には外出禁止の寄宿舎生活を強いられており、自身をしばしば流行歌に歌われた「籠の鳥」に見立てた。五月三〇日、東京の東洋モスリン亀戸工場の労働者が、闘争の結果、紡績工場では初めて「外出自由」を獲得。「女工哀史」脱出の曙光がきざした。

『雑器の美』

「白樺」同人・柳宗悦が六月二〇日に発刊した著書。正式には民芸叢書第一篇『雑器の美』。柳はこの中で、従来庶民の生活用具として見向きもされなかった雑器にこそ美しさがあると主張、揺籃期にあった「民芸運動」の理論的根拠を示した。この年さらに、上加茂民芸協団を組織し、最初の民芸品展を開いて同調者の輪を広げ、昭和一一年、東京・駒場に日本民藝館を設立した。

東方会議

第一次山東出兵中に、田中義一内閣が対中国政策の基本方針を討議・決定した会議。六月二七〜七月七日開催。田中が外相として主宰、森恪外務政務次官、芳沢謙吉中国駐在公使、児玉秀雄関東庁長官、吉田茂奉天総領事、陸・海軍関係部局長らが出席。森や陸軍の武力行使も辞さずという強硬論がリード、最終日に「対支政策綱領」が発表され、日本の特殊権益死守の固い決意が表明された。

毎日新聞社

▲東方会議は6月27日から開催。対中国「積極外交」に転換、第2次山東出兵を決めた。

内閣家計調査

国民の消費生活の実態を明らかにするために行う、家計簿記入式の調査。政府による初の調査で、前年九月開始、八月三一日に終了した。協力世帯数は一万一八二四。調査結果は昭和四年に公表され、庶民の窮迫が明らかになった。給料生活者でさえ勤労収入ではたりないのに、農業従事者の収入はその七割にすぎなかった。この調査は米価算定の資料となり、昭和六年から毎年実施された。

女子青年団

文部省の肝いりで、全国一五〇万人の処女会を統合して設立した、若い女性の組織。四月二九日に創立宣言を発し、機関誌「女子青年団」を創刊、一〇月一〇日、三九府県代表約四〇〇人が参加して、日本青年館で結団式を行った。正式には大日本連合女子青年団。総理事長・山脇房子。国家総動員体制を志向する政府の意思が、色濃く反映していた。

朝日新聞社

▲水野文相の発声で万歳三唱する女子青年団の結団式。出席者の大半は小学校の女性教員だった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1927

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス ㈱コマル社 ㈱コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展 結城順一 吉田忠正
●写真協力
ベレニス・アボット 石黒敬章 影山光洋 影山智洋 佐藤愛子 椎野充 隅田光子 但馬一憲 根本章雄 横堀洋一 チャールズ・マーティン W・H・ロングレー ARCHIVE PHOTOS 朝日新聞社 アメリカンフォト・ライブラリー 「イリュストラシオン」 オリオン・プレス 共同通信社 木挽社 CORBIS-BETTMANN ナショナル・ジオグラフィック・ソサエティ 能登印刷出版部 PPS 北文・外文出版社 毎日新聞社 マツダ映画社 ユニフォト・プレス 小田急電鉄 静岡鉄道 宝塚歌劇団 吉本興業 大宅壮一文庫 呉市企画部海事博物館推進室 スミソニアン博物館 中国文化省 逓信総合博物館 東京国立近代美術館 豊島区立郷土資料館 日仏会館図書室 日本近代文学館 日本漫画資料館 パイロット筆記具資料館 早稲田大学

雑誌 23715-6/30
Ⓛ-2001/1/1
T1123715060561

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社